明治三十二年六月二十七日發行

（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百拾五號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百拾五號目次

講演

挿畫

寄書

中外彙報

大日本婦人衛生會記事

新潟支會記事

入會轉居報告

◎會告一二三件

◎會員各位へ御依賴

會員各位が本會の爲め入會者を御紹介相成候員數は本會發達の紀念として統計表を作り永く之を保存し以て會員各位の本會に對する厚意を永久に傳へんとす（調査後本誌登載）

會員各位よ願くは國家のため婦人衞生のために層一層の奮發をもて會員の誘導を圖られんと冀望に堪へざる所なり目下本支會の會員數は各位の盡力によりて次第に增加せるも本會は僅かに千貳百餘名の會員を以て足れりとするものにあらず必らずや日本全國に對して本會の素志を充分普及せしめざるべからず憶ふて玆に至れば本會行動の遲々たる又嘆すべきなり本會は固より一個人の私有にあらず會員諸氏の集合躰なれば各位の協力熱心の如何は又以て本會興亡の如何を卜すべきなり

會員各位よ願くは國家の爲め婦人衞生の爲めに其熱中することと米佛婦人の如くナイチンゲールの如くならざるも少しく衆力を結合せらるゝに於ては盍し本會をして擴張せしむること又難きにあらさるなり特に本會會員の諸氏は何れも高等の敎育あらせられ社會の交際といひ勢力と云ひ兼備せらるゝ方々のみなれば斯道の爲め率先せられて世の指南車となり以て後進を誘掖せられんこそ國家に對する義務と云ふへきなり玆に會員に檄して各位の猛省を祈る

明治三十二年六月

私立大日本婦人衞生會

中下

附圖



容貌は美なれども此の如き體格は肺結核等に罹り易し

婦人衛生雑誌第百拾五號（明治三十二年六月二十日發行）

講演

◎女子の體育（明治三十二年五月十三日於本會例會）

東京帝國大學名譽教師プロフェッソル、ドクトル　エ、ベルツ君述
文部省學校衛生主事醫學士　三島通良君代演

殿下及び貴女諸子私は今日名譽有る御依頼を辱ふし女子體育に關する一場の演説を致さうと存じます。

御承知の通り私は二十有餘年の間日本人の身躰に就て研究する機會を得ましたソレで女子の體育に就ては特に御注意を致したいと思ふて居りました處ですから今日は幸ひ一二の手ほどきを致さうと存じます。

然るに、私の日本語の智識は甚だ不充分でありますから、ドクトル三島君に御依頼して、私が諸子の前に述べやうと思ふことを、代つて演説して戴かうと思ひます。

（以下三島醫學士の演説せられたるものなり）

茲に少女の體育に關する問題が有りましたとすれば、其事は、必ず家内に於ては、自ら何事をも爲すことなしに暮す處の、中等及上等社會に於ける少女の事に關することだと云ふことを、先づ初めに明言して置かなければならぬ。下等社會の女子の身體と云ふものは、其必要に迫られて、日々の勞働に服して居りまするから、特に之を論ずる必要は御座いませぬ。是等の則ち下等社會の女子の體格と云ふものは、之を上等社會の女子の虚

弱なるに比すれば、著しく强壯で有ります。若し併し下等社會の女子の體格にして、强壯でないものが有つたならば、ソレは貴女方の樣な、立派な御方の毫も御存じない處の、缺點があるので有りまして、乃ち食物の不足、營養の不充分と云ふことが其原因でなければならぬ。我々の中少數の者が知つて居る事實に由れば、日本國內の隨分貧困なる地方に於ては、大麥と云ふものが大層な御馳走であつて、蕎麥の如きは、實に一つの珍品として珍重されると云ふほどの處もあるので御座います。私が山間僻地の斯くの如く粗食をして居る處に於て、其女子の躰格と、小兒の躰格とを見ますると甚だしく虛弱であると云ふことを發見致しました、併ながら斯う云ふ樣な處は至つて稀にして、日本全國を通じて申しますれば、此邦の勞働社會の食物などは先づ可なりといつて然るべき位ゐのもので御坐います。

今女子に對して、一定の秩序ある處の躰育を施すといふことは、日本國に於ては、先づ新らしき事業と申さなければならぬ。最も歐羅巴に於ても、此事業といふものは、人の思つて居る程古くから在つた事では御坐いませぬ。既に米國の如きも、女子に秩序的の體育を施したと云ふことは、僅かに二十年以來の事柄で御坐います。處が歐米各國に於ては、女子に體育を行ふと云ふことに就ては少しの妨げも御坐いませぬ、因つて幸ひに、今日の如き好結果を得て居るので御坐います。然るに日本國に於ては、今日まで進歩して來た處の開化の模樣を觀るに、女子敎育と云ふ事に就ては、一種異樣の狀況を呈して居ります。

元來此世界到る處に於て、女子の位置と云ふものを、不都合ならしむる處の理由が二つ御座います。其一つの大切なる理由と云ふものは、一夫一婦の制度が不確實であると云ふ事、即ち男子と云ふものは、縱ひ妾と云ふ名義でありたりとも、一人の男子が數婦を娶ると云ふことが出來る。最も甚だしきは斯くの如きことを一の法律として行つて居る所も有ります。即ち此國風の最も甚だしく發達して居る處の人民は、「マホメット」宗の人民間に於てゝ有ります。而して斯くの如き國に於ける女子なるものゝ位地は最も甚だしき狀態を呈して居ります。此「マホメット」の宗教の國に比ぶれば、數等勝つては居りまするけれども、近年に至るまで日本の文明を支配して居つた處の、支那の制度の上に於ても、亦女子と云ふものが自ら其勢力と自由とを持つて居るものでないと云ふ事實は同樣であります、而して其身分の高い人程、女子を家の奧の方に追込めて居るやうな有樣で有りまして「奧樣」などゝ云ふ稱は乃ち是等の事から始まつたので御座いませう。

又モウ一つの理由は、元來武家が政權を執つて居る間は、極端なる武家の制度を執行して居りました、仍で總ての人が武家制度の敎育を享けて居つた　然るに德川家康に至つて、好んで支那に於ける孔子の立てた處の法制及び道德の主義を採用して、之を在來日本人の好んで居つた處の武家一片の精神に調和して、而して之を廣く行ふ樣になりました。併ながら斯ふ云ふ風に致しましても、猶ほ政權を有する樣な上等社會の家の女子と云ふものが、自主獨立と云ふ力を持つことの出來なん

だ事實は同じことで御座います。

凡そ孰れの職業を問はず、其人の生活費を得るに當つて、其働きが男子と同じきか、或は大差なき場合に於ては、女子自然相當の權力を有するもので有ります。此實況は、殊に此女子の職業として立つて居りまする處の、或は旅人宿であるとか、又は料理店であるとか、云ふやうな處に於てのみ然るのではなくして、例之ば農家の如きも、女子が隨分男子と同じ位の働きを致します、爾う云ふ處に於ては、女子の權力が自然男子と同じ樣に立つて居ります。尙ほ一歩進んで女子で無ければ出來ない事をして居る土地、即ち蠶業、紡績、機織等の隆なる處に至つては、是等の地方の女子と云ふものは、却つて男子より權力が遙かに上にある位で有ります……中言で有りますが、上州地方は殊に爾う云ふ有樣でありまして、上州名物は「嚊ア天下に寒ッ風」と世の人の口の端にまでも謳はれて居る。其位女子の權力が強い故、男子が女子を必要とする場合には、自然女子の權力がソレに伴つて參る。處が古の武家と云ふもの丶有樣を觀ると、男子が殆ど全權を握つて居るので有りまして、その男子が外に對しても、亦家に對しても、國と云ふものに對しても、獨立の位地を占めて居る、自主獨立の位地は男子の物である。處が女子の方は男子に對して何う云ふ位地を取つて居つたかと云ふに、僅かに其子の母と云ふだけの位地しか無かつたのであります。或は甚だしきに至ると、女子は男子の快樂に供する一種の翫弄物のやうな物と認められて居つた。爾う云ふ風でありましたから、女子と云ふものが少しも權力を持つ

て居りませぬで、其夫たる人の望む處は、何事でも背くことは出來ない、又其主人の命ずる處であれば、極く理もない事柄にまで自分の生命を犧牲にしなければならぬと云ふ狀態であつた。而して德川氏の天下を治むる前までは、戰亂が永く續いた、從つて此戰亂の時の國民は、男子も女子も己れの生命は明日をも期し難きものと覺悟をして居つた、仍で自然女子の心も勇壯で有りまして、隨分此戰亂の間に勇烈なる名高き婦人も出て居ります。譬へば明智光秀の室、柴田勝家の妻、細川忠興の夫人等の人々が輩出したと云ふものは、矢張り自然其時分の男子が持つて居つた勇氣が、女子の上にまでも移り行いて居つたので有ります。斯う云ふ事は既に後の人が之を聽いて、其事蹟を知つて、女子の勇烈なる事に感心して居るので有ります。處が斯う云ふ戰亂の續いて居る間と云ふものは、無論人々が各々其腕で以て天下を取ると云ふ有樣故、男子も自ら强壯でありましたし、又從つて强壯なる女子を必要として尊んだ。處が家康が天下を治めて、爾來三百年の太平を來たしたと云ふ時には、自然男子にも柔弱に流れ、從つて女子も別に身體の丈夫なるを必要とする處は無くなつて來て、唯女子と云ふものは、一の家內として生活するに足りれば宜いと云ふことを望むやうになつて來ました。其有樣はその常時の風俗を畫き現はした處の、浮世繪と云ふものが之を證して居る。現に德川幕府の初めに當つて有名なる浮世繪師の又平、師宣、祐信などの書いた美人を見るに、いづれ繪師の畫くのは、其時の美人の風姿に粧へて置くのであるが、其骨格は壯健で、丸顏で、活

潑な愛嬌溢るゝやうな美人を書いてゐる。玆に一つの掲げました圖（元祿風なる美人の立姿の圖之）は、是れは祐信の書いた美人であるが、皆樣が御覽になる通り、所謂丸「ぽちや」の愛嬌浮山と云ふ



祐信筆
美人の圖

美人であります。然るに歌麿が出て頻りに浮世繪を書き始めた、而して其歌麿一派の者どもの書いた美人を見ますると云ふと、體の細長い、極く弱〳〵した、丁度人形を見るやうな繪を書いて居ります、之を少しく極端に形容して言つたら、歌麿の書いた美人の繪は、體を斯ふ云ふ風に折り曲げて、結べるやうな細長い人間が書いて有ります。是れ即ち當時の人の理想に描いた處の美人で有ります。處が葛飾北齋が出ましてから‥‥北齋は畫師の中でも餘程氣骨のあつた人で、なか〳〵立派な浮世繪を書きましたが、此北齋が書いた畫は、男子は强壯な立派な體格の者を書いたけれども、女子の方は比較をすると餘程釣合が違つて、極く撫肩にやさ〳〵しい女子が書いてある。是等が矢張り北齋が浮世繪を書く理想であつた否當時の理想であつた、即ち此時代は男子は强壯なるを好しとしたが、女子はなほ歌麿時代と同じやうな弱々しきものを佳としたのであります。歌麿の如きは女子のみならず、男子さへ少しも威儀堂々とし

たやうな處はなく、俗に謂ふ御平の長芋然たる男子を多く蓄いてある、ソレ故此頃の美人と唱へるものは、纎細い、弱々しい、顏色の蒼白いのが美人と云ふものになつて居つた。仍で是れが美人と云ふもの丶標準であるからして、自然人が女子をして爾う云ふ風に仕立てやうと云ふ考へを起して、成たけ家の奥深き處に於て、室外の運動などと云ふことは全然遣らないやうにして、自から其當時の人の理想に描いて居る所の美人に適する樣な敎育を與へて、又ソレに適する樣な衣服裝飾を粧はせましたので、恰も煖室の内で花を育てるやうな仕方を以て、女子を敎育しました。今日も尚は斯ふ云ふ風が遺つて居りまするから、女子の衛生に適する樣な敎育を享けさせやうとすれば、自から非常の困難と衝突することは免かれぬ次第で有ります。乃で一方に於てはどうか容姿を美しくしようと云ふ考へから、衣服とか、歩み方とか、姿とか云ふやうなことに制限を設けまして、又敎育上に於ては自然激しい身體の運動をさせぬ樣にして居る。斯う云ふ風にするのと云ふのは、最も男子が女子と云ふものを一つの財產視して、家の中に藏つて置くが爲め、即ち勝手に戶外に出られぬやうに、足を極く小さくして置く處の支那の風習があるが、爾う云ふ殘酷なる風習に比ぶれば、我邦の風は餘程輕い話しで有ります。併しながら我愛孃を將來强健活潑なる母として、健康なる小兒を得せしめんとするには、女子の敎育の上に、何とか改良、方法を加へなければならぬ、どうしても今日の儘で抛擲することは出來ない。其何とかしなければならむと云ふうちにも、就中身體の

運動と云ふことが缺けて居つたならば、他の事は殆ど用を爲さんのであります。男子の方に、充分に體育を施すと云ふことは、殆ど少しの反對論も有りませんから、女子の體育論と比ぶれば、我邦に於ても非常な迅速の進歩をして居ります。從つて其結果を現はして居るので有ります。處が女子の方に體育を遣らうとすると、種々なる點に衝突を起すと云ふことは免かれられませぬ、仍で今日此女子の教育上に一つの改良を企て樣とするには、成たけ舊來の習慣と衝突をせぬやうに、充分注意して最も世の反對の無きことから、指圖して行く手段を取るより外仕方がない。私は數年前に大日本教育會で、女子教育に就て演說したことが有りますが、其時分には例の歐化主義が非常に流行して居つた時で、此事には自分は反對の意見を持て居つたから、此歐化主義なるもの〻反駁をしたことが有ります。處が歐化主義が益々盛になつて來たので、後には自から之に反對する意見が出て非常に之に對つて駁撃を加へたが、今度は其駁撃が遂に極端に馳せて、今日では却つて引込み思案になつて來ました。

私は先づ茲に日本婦人の服裝に就て、最も特異なる處の點を擧て見ようと思ふので御座います、

第一、日本女子の衣服と云ふものは、上部の方に於ては、大へんに濶々として居つて、下部殊に脚と膝の邊に於て、大へんに窮屈になつて居る事、

第二、帶紐を結ぶ所の場所が天然の身體の凹みの在る處に結ばないで、宛も足の運動を妨碍する樣な骨盤の下の方に結ぶこと、

第三、　帶は其幅が廣く、其地質が剛く硬くして不便である殊に晴の衣服を着飾つた時に於て甚だしく、身體の運動に不便なる事、

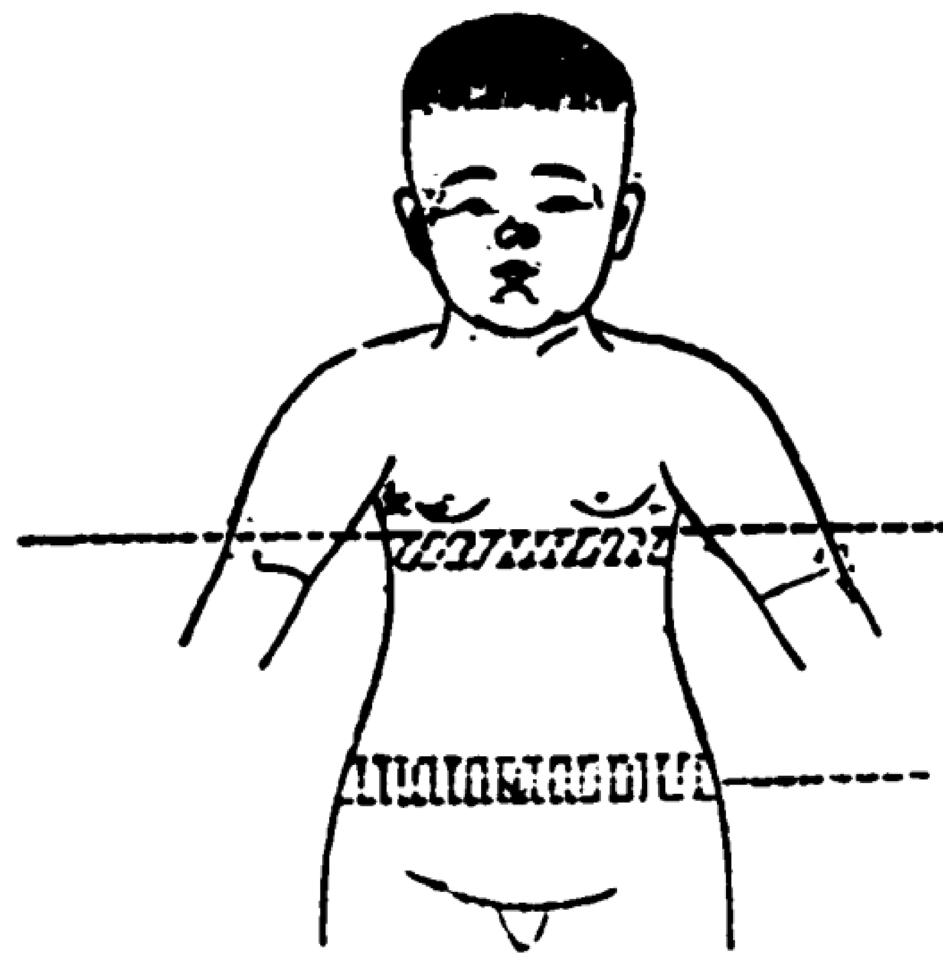
第四、　日本女子の穿き物は足の運動に伴はざる事、

第五、　髮の結び方が、總てからだを強く動かすことに適せずして、強く動せば自然髮が搖すれ、又は壞れる事、

以上が日本女子の服裝に就て掲ぐべき特殊の點であります。斯う云ふ衣服故、自然と歩行を妨げ、胸及び服部の內臟に障害を及ぼすのであります。歩行を妨げ、胸腹の中の內臟に障害を及ぼすものでありますからして、其缺點は引いて四肢の筋骨一般より、內臟等に影響を及ぼすと云ふことを能く記臆しなければならぬ、

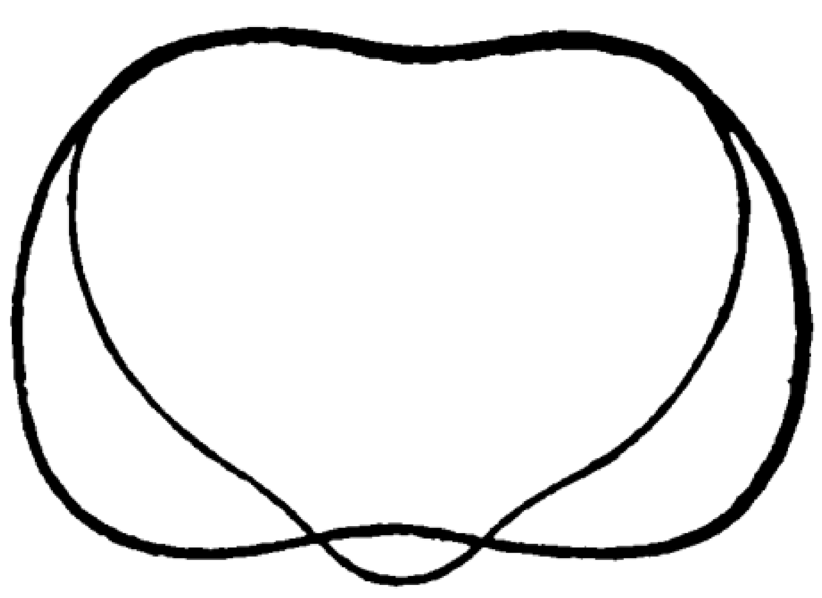
一體此身體のしつかり嚴とするとか云ふことは、其人の骨格に因る譯で有ります。骨格が強ければ、身體の容儀が、自然嚴然とする。其骨の強いと云ふことは、其骨の中に含んで居る土質、若くは石質、即ち鹽類の多寡に關する譯であります。一體健康なる母親から生れた子供は、生れ立ちから、からだの形も好し、又骨組も確乎して居る。併しながら其骨格をして益々強くしやうと云ふのは、其生れ立ちの強弱を論せずして、專ら食物中から鹽類を取らなければならぬ。人間の乳、即ち母親の乳の中には、自然多量の鹽類を含んで居りますから、性來弱い小兒でも、一年位の間には、隨分能く發育を致します。又米と云ふものは、鹽類を含むことが比較的少ないもので有ります。其米を始終常食とする處の日本人、殊に中等以上の日

本人と云ふものは、矢張米を以て小兒を養ひます、然るに其小兒の消食器が極健全でなくして、加ふるに運動が不足であると云ふことであると、骨に對する必要な鹽類を十分に取ることが出來ない。ソコで斯う云ふ樣に小兒の骨格は極く軟かであつて、成長後までも其軟かなまゝに止まつて居る。處に以て來て、衣服と云ふものが餘程健康上不利なるものを用ゐ、其中にも最缺點とするところは、子供の帶紐を締めて遣る位置が大へん高い處である。それ故日本の小兒を見ると云ふと、丁度胸の……乳の下の處に一つの溝が出來て居る、是れは實に澤山に例のあることでありまして、ベルツ先生のみならず、私なども常に澤山診て居る。殆んどの小兒でも此溝あるといつて宜しい位なものであります、ソレは玆に圖を揭げて置きましたが、日本の小兒の紐を締めるのは、乳の下の處、此圖に赤き線を引いた處であります、即ち斯う云ふ風で有りまして、腋下から紐を通して、此乳の下で結んで置く、或はモウ少し紐を下



の方に附けて置いても、小兒は御承知の通り、抱いたり搖り上げたりするので、遂には乳の下處ではない、甚だしきは乳より上の處に迄も紐が往つて仕舞ひます。處でまだ小兒の骨格が軟か故、ソレを締めて居る間に、眞中に一つの溝が出來る、

是れは皆樣が御覽になると解るが、大抵の小兒は、乳の下に溝が出來て居りますので、自然肋骨の下の處が、外の方に翻りかへつて居る樣に見えて居ります。こんな風にしてありますると云ふと、自然小兒の發育を妨げるは無論の事にして、肺の下の方の部分、及心臟の自由なる運動を妨げ、進んで胃の腑、肝臟と云ふ樣なものは片方に寄せられます。又斯ふ云ふ風になつて居りまするから、自然其小兒が後には肺病に罹つたり、或はソレ程の事でなくても、諸種の病症、消化器の病氣に罹ると云ふことは、免かれませぬ。小兒が斯ふ云ふ風になりますのは殊に冬が甚だしいのであります、何故かと云ふに、冬期は少し虚弱な小兒があると、殊に親達が氣遣ふの餘り、我愛兒を取扱かふに、丁度大事の茶器でも扱ふ樣に、無暗に澤山の着物を着せる、而して其衣服には一枚づゝ皆附紐が附いて居る、ソレを一枚毎に締めて行く、私の勘定したので一番多かつたのは、大學の小兒科に來た小兒で九枚衣服を着て居たのが有りました。さう云ふ風に着せるのでありますから、冬になると尚一層胸が壓されてソレが遂に一つの溝の如くになつて、躰の形となつて殘つて居る、而してそれが所謂鳩胸と云ふものになるので有ります、今斯かる小兒の胸を胴切にした形を圖に示して御目に懸けます、



太き外線は正しき胸廓を示し
細き内線は不正なる鳩胸を示す

則ち是れは人の胸を胴切にした圖で、上の線は十七歳になる極く健康な娘の胸を切つた型で、下が前で上が背骨の方で、殆ど前も後も餘り變りが無い位ゐです。之に反して今の鳩胸の方を切つたのは、前の處が出張つて兩側がへこんで居る、斯くの如き變形を生します。又中には斯ふ云ふ風に前が飛び出したのではなく。反對に引込んだものもある、

さて此胸の形を取るには、まさか眞實に胴切にする譯にも往きませぬが、どうして型を取るかと云ふに、鉛の薄い紐を造つて置いて、其紐を胸の處に悉皆當てゝ、型を取りそして靜かにソレを脱して紙の上に載せて、筆で型を取ると、斯く云ふ形狀が出來るので、今の溝の出來て居る小兒の胸は、丁度斯ふ云ふ風な形になつて居ます。斯やうな風な形狀の胸を直すことが出來るかと云ふに、未だ小兒の骨格が軟かい間は、或は躰操や治療法に因つて之を矯め直したり、又は全快させることは容易く出來るので有ります、處が其年齡が十四年以上の者になりますと――モウ骨格が堅くなつて、思ふ樣に治することは出來ない。ソコで斯ふ云ふ風な胸の小兒が有つたならば、ソレは成たけ十歳にならん中に、治療する樣にしなければならぬ。處が一躰どう云ふ樣な骨格を有する小兒が健康であるのかと云ふことを、母親たる人が知らなければ、我兒の胸に溝があつても、凹みがあつても、皆世間の小兒も一躰にこう云ふ風なものであらうと輕く看通して、遂に治療の時機をも失しますから、平素より母親が健康なる小兒の胸は、如何に、虚弱なるものゝ胸は如何と云ふことを豫め知つて

居らなければならない。玆に掲げましたのは即ち健康なる小兒の胸の型、又、即ち下に書いたやうな胸の型は、不健康なる小兒の胸の型であると云ふことを皆樣が記臆せられなば直に解ります。仍で小兒の身躰が虛弱にして、胸廓も不完全なる事を知つたならば、速かに醫師の處に連れて往つて、之を治さなければならない。私が今醫者と玆に言ふのは、病人の手を握つて處方箋を書く醫者を云ふのではない、機械的に骨格の形を變じたやうな疾は、矢張り之を機械的に治すといふ術を知つて居る醫師を指すのであります、ソレから次には日本の小兒の衣服と云ふものが、餘り長過ぎて、從つて歩行の練習をするには大なる妨げになることとは、明かなる事實で有ります。仍で斯う云ふ風な衣服を着せて置くと云ふと、自然衣服の爲めに容儀が惡るくなる、乃ち其爲めに內臟までも惡るくなると云ふのは無論の話である、此事は尙ほ下に於て別に論じますから今は之に止めて置きます。尙ほ此日本の男兒の方は、今日より十五年乃至二十年前に比ぶれば、身躰が著しく强壯になつた、是れは畢竟何程か學校が注意して、躰育を行ふことが自然の結果を現はして來たのであるが、同時に男兒の衣服が女兒の衣服よりも運動に適して居る、言い換ふれは運動するのに便利の爲めでもある。殊に今日の如きは小學校では皆悉く筒袖を用ゐなければ不可ないことになつたので、大に運動の便利になつたと云ふことが、餘程男兒の躰格を好くしたので有ります、

ソレから其次に申上げたいのは、日本の女子は晴衣として振袖と云ふのを用ゐます、此振袖といふ

ものは以前から在つたもので有りますが、殊に此兩三年以來、この振袖の長きが益々長くなつて、大振とか、中振とが、小振とか、なんだか夕立雨の名前のやうな振袖が出來て來ました。成程振袖を着た姿といふものは、其處に出して飾つたところは、如何にも立派なものであるけれども、一方から考へると、實に是れは小兒に對して殘酷なる所業と言はなければならぬ。何故かと云ふに、頑是なき小兒の方では未だ衣服の利害などは少しも考へない、只好い衣を着て奇麗に見えれば嬉しくて耐らぬのみである、乃ち只傍の者次第である、けれども其母親たる人は、少しく考へて見なければならぬ、即ち振袖は、普通の袖よりは甚しく重いもの故、自然臂から手首の方に重みがかゝつて手を自由自在に動かすことが出來ない、同時に是れ（肩より上臂）へ重みがかゝるので、自ら肩を引張つて下の方と前の方とに屈めるやうにします。肩が引張られて撫肩となれば背が前の方に來ますから、自ら胸廓の發育を妨げるので有ります。

故に日本の娘の着る振袖又は袖の大なる衣服は、成程見る處は立派であるけれども、小兒の身躰の發育を考へ、衛生上から論ずれば又どうも非常なる有害のものである。と云ふたからとて私は決して今日の女子の着物を男兒と同じ様にして仕舞へと云ふ様な、そんな極端の事をする積ではない、只女子の着物もどうかモット簡單にして輕くする工夫は無いか、現今用ゐて居る様な複雜にして重い着物でない、簡單な輕い衣服にする工夫はないか、どうかその輕くする御工夫を皆様に願ひたい

と希望致すのである。此事は衞生上から、我々などが始終注意を與へて居るが、又教育上でも學校に通ふ女生徒の衣服が立派になり、殊に卒業式の時などは、實に精一杯に華美を競ふと云ふ獘風が、近來漸く甚だしきに至りましたから、教育上でそれ等を矯め直す方針を取つて居るが、一躰此事は學校ばかりでなく、近來は小兒に立派なものを着せるのが流行るといつて宜しい。啻に衣服ばかりでなく、其他の裝飾にも實に驕りを極めて居つて、傍らより之を見れば丁度小兒を、親が人形扱ひにする樣になつて來て、ソコで衣服も立派なものを着せ裝飾品にも金をかけ、袖を長くし、帶を巾廣く且厚くし、ソレからして簪の如きものも、大へん大きな平打の重き簪などを挿しかざします、ソレから髷の形などもいろ〳〵大きな髷を結ふと云ふ風になつて、大へん贅澤を盡してをります又………是れは少し側道に這入りますが御參考にお話しておく。私の住つて居る銀座は、實に同じ東京の都の中でも、最も贅澤な處であるが、或時町へ入浴に往つて、人の談を聽いて居ると、隣の女湯に小學校の生徒が這入つて居つて互に談話をして居る、其話は髮道具の事で、一人の曰く「あなたの挿して御ゐでの櫛は眞物ですか贋物ですか」と云ふ樣な事をいつて居つた。何も小學校の生徒などが贋物でも眞物でも馬爪でも本甲でも宜さうなものを、爾う云ふことをいつて居る。而して僅かに十三四歳位ゐの者が湯に來れば流しを取ると云ふ樣な、實に高慢た遣り方をして居る、先づ一寸としてもそんな風である、以て其一般は推して知るに足ります。そんな風故衣

服、履物、装飾品は少女に不似合な程贅澤を盡して居るといふのが今日の世の中の狀態であります。殊に又・・・・・・・何といつて宜いか、俗に遽分限とでもいふやうな人は、尙ほ一層甚だしきまで只金を遣つて自分の娘を飾ることを以て自慢をして居る、斯う云ふ處の少女は、實に立派な風をする、處が私は是等の有樣を見て、其兩親に對して段々質問しなければならんことがある。即ち第一あなた方は自分の娘を何んと思つて御出でなさる。活人形とでも思つて居るのですか、見世物とでも思つて居るのですか、さうでなければ今云ふが如き立派な着物を着飾らせて、而してソレを只他人の前に見せるのが如何にも自個の樂み、又名譽であると云ふのか、どうも私には解らん、さうしてそんな風に小兒を育てゝ行くから、遂に其少女は段々弱くなつて了つて、遂う／＼終いの果ては、或は長病みをするとが、又は身躰が何處となく一躰に弱くなつて了つて、小兒ではない、まるで自然の少女と云ふ形態を失つて、少さな大人の樣なものが出來る、而して其少女が自然身躰が弱ければ始終面白くなくつて活きて居る甲斐もないと云ふ樣な考を起します、さて之を顧みれば少女をしてさやうな不幸に陷らしめたのは何に因るか、即ち其子の父母が大へんに金を消費て、其不幸を買つたと云ふに過ぎないのである。一躰人が女の兒を飾ると云ふ風は實に甚たしい、男子は飾つても飾り榮へがないと見えて飾るといふやうなことはしない。斯う云ふ樣な考へを持つた親は、一躰小兒が生存して居るのは、玩弄物にする爲に活して置くのか、どうか、ソレとも後年有爲の女

子たらしめん爲、之を教育して良妻賢母たらしめん爲めに養育するのであるかと、斯う聞いて見たくなる。往古から諺の有る通り『人は容貌より只心』又水戸烈公の言に『腹の中に錦を飾れ』といへるが如きは、皆此事を言はれたのであらうと思ふ。只單に一時の快樂をむさぼらん爲に外形の美を飾つて後來不利益があつては何んにもならない。又我々が常に上等社會の家の少女を見ますと、誠に可愛らしい而も誠に美しい、けれどもなほ能く之を見ますると極く眞面目で大人らしくツて淋しい顏をして居ります。處が海邊にでも往つて漁夫などの處の少女を見ますると、實に始終嬉しさうな風をして、活潑に而して滿面に笑みを含み、而して軀格の立派なると上流の女の遠く及ぶ處でない。何故に物の不自由の無い家の少女は淋しさうな、大人らしい、惡るくいへば古こびた容子をして居つて、ソレで却つて其日々〳〵の物にさへ不自由を感ずる、漁夫などの家に養はるゝ少女が、能く太つてぽちや〳〵して、活潑な顏色をして居るのか、私はソレを見る毎に實に心の中に之を痛んで、比較をするに堪へぬ。斯う云ふ風に傍から見ると如何にも何不自由なく暮して居つて、立派な家に住み、華美なる衣服を纒ひつゝ在る其時こそ、人にも羨まれ、親達も亦其子を思ふ心から乳母日傘で蝶よ花よと人にも羨まれて見たいと思ふて居る。然るに其御孃樣は後にはソレと反對になつて羸弱い奥樣となり、どうか少しは不自由をしても宜いから、丈夫になりたいと云ふ樣になる。是れは畢竟其人自身が惡るいのではない、所謂『親の因果が子に報ふ』と云ふのである、

然らば斯う云ふことの無い樣にするにはどうしたら宜いかと云ふと、先づ少女の衣服を出來るだけ輕くする樣にして、其着物に附ける處の附紐の如きは成たけ其巾を廣くして、而して結ぶ處も先刻御話をした樣な、間違つた處でなく、正しい處に結んで遣る樣にしなければならない。なほ帶で有ります、此帶も近來はどう云ふ量見か知らぬが、堅(や)の字が流行つて來たが、私に言はせると堅(や)の字に帶を締めた御孃樣は恰も武裝をした兵士の樣である。加ふるに戸外に出る時には高い駒下駄を穿いて居る、其駒下駄の中には鈴を附けて置いて、一歩を歩む毎に鈴の音を響かせて居る、斯ら云ふ風な有樣は見た處は立派であるが、からだは周圍の物を以て拘束されて居りまして、運動か十分に出來ませんから、自然からだが贏弱になるので、女子の躰育は先づ第一にソレ等の事を改むるのが必要であります、

玆に小兒の帶を締めるに正當なる塲所は、臍の上であります、從來普通少女の帶を締めるのは此處(圖に就て示されつゝ)乳の下で有りましたが、帶や紐は此處(臍)の邊に締めなければならぬ、

ソレから躰操遊嬉をするときの衣服は、成たけ短かくしなければならぬ、さうして其長さは膝に達するだけでなければならない、又穿物は成べく底の薄い輕いものを穿かせて置かなければならない、殊に夏などは成べく着物を薄く輕くして、跣足にして置くが宜い、夏足袋を穿かせて置くなどは途方もない間違ひである。此跣足と云ふことは學校衛生上の問題で私は數年以來諸方に向つて跣足を奬勵して居る。此跣足と云ふものは極く好

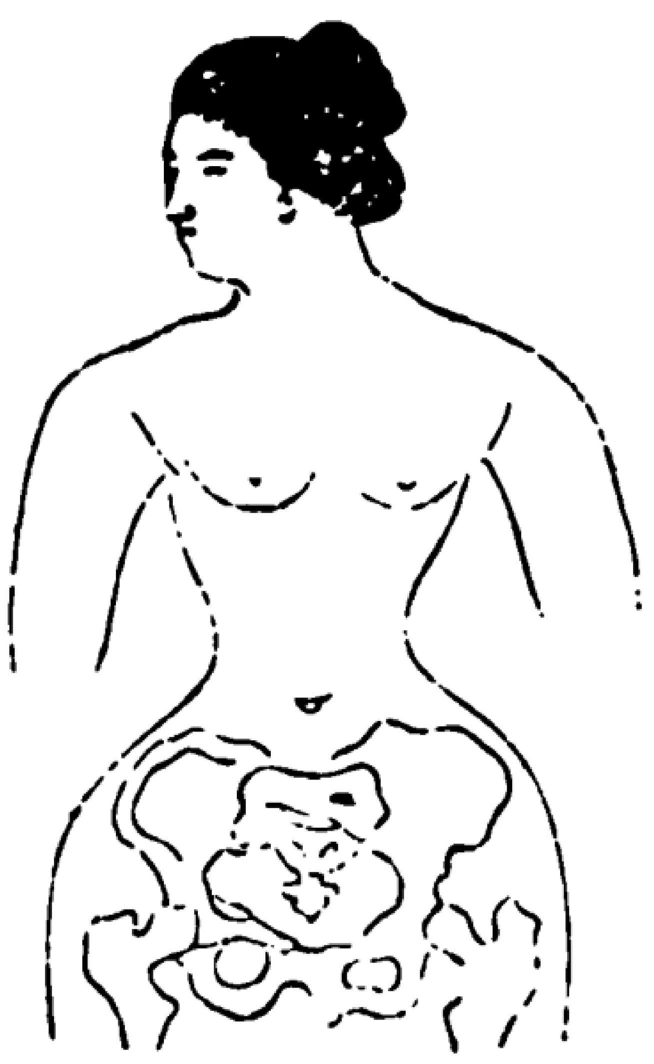
いものである、然るに世人の此跣足を怖がつて、どうも炎天に焼けた石の上を跣足で歩るいては霍亂でもしはせぬか。又極く寒い時に、霜柱の上を跣足で歩るいたら感冒にでも罹るだらうといつて心配をされる。ソレは成程常に足を包み掩て居つて、外の空氣にも觸れない様にして居た者が、一時に冷熱の甚しい處に出たら、そんな目にも遇うだらうが。一躰小兒と云ふものは、さ程に心配をすべきものでない、成べく素足にして置いて宜いものである。若しも夏は勿論冬の最中でも足袋を穿きたがる様なものは、弱い小兒と珍斷しても差支はない。跣足でどん〳〵外へ追出す様にしなければならない。爾うすると自然足か空氣、寒暑に觸れても、風を引くなどの事はなくなります。一方には着物が薄くなり又足は素足であるから、自由勝手に運動することが出來る。是等は皆様が海邊に御出になつて御覧になると直ぐ解る。跣足の事は男の兒に就て言ふばかりでは有りませぬ、女の兒もさうしなければならぬ。

なほ注意すべきことは此も矢張上流社會の事であるが、此家には所謂乳母と云ふものが附て居る、此乳母さんと云ふものが始終御孃様の御機嫌を取つたり、又御世辭を言つたりして、此御孃さんを極めて臆病者になして了ふ。「御姫様そんな事を遊ばしますと御風を召します。」やれ何うだ斯うだと始終そんなことを四方八方から言ふので、御孃様が悉皆臆病になる。此乳母の爲めに御孃様の身躰の發育を妨げられる事は實に非常のものである。實に此等の乳母が御孃様を取扱うのを見ると極く薄い布か薄手の磁器でも取扱うやうなもの

で、日本ではそれを俗に腫れ物に障るやうだと云ひますが、さう云ふ様な取扱をされてはどの様に丈夫のものでも迚も健康になれやうはない。家庭に於てさやうな有様に育てらるゝよりは、寧ろ其組織さへ良ければ幼稚園に遣つて置く方が宜い。併ながら私は孰れの幼稚園でも皆宜いとはいはない、組織の完備したる幼稚園であるならと申すのです。此所に於て保姆の教育を受ければ、無暗に贅澤を云ふやうなこともなくなり、又規律も幾らか覺へソレから人に對して温順なる考へも養成されるから、幼稚園に遣るのも宜しい。併し折角教育ある保姆が注意をして育てましても、母親が後から其を破壊すやうなことの有りますから、是等の事は教育上、衛生上から観て家庭に於て餘程注意しなければならぬ。……是れまでは主に小さい女児の事を御話をしたが、是れからは少し成長した御嬢様時代の御話をするつもりで有ります、

少し成長した娘になれば、恐らく着物などの影響も少ない、小児程では無からうと思ひます。けれども此の衣服等が矢張り相應に身躰の害を爲すと云ふことは同じやうである。殊に日本では、女児の身が丁度十分に育たうと云ふ時代に、前に言ふたやうな帯を堅く締める。此帯を堅く締めると云ふ癖は、私どもの知つて居る處では日本の女子の一般の習慣である。歯ぎしりをしながら堅く締める、此が大へん悪るい。さればとてズルズルに、猫じやらしでも困るが、帯を餘り堅く締めるが爲め、腹の中の臓腑も其爲めに影響を受ける。尤も眞個に悉皆からだが出來上つた後なれば、骨格が

堅くなつて居ますから、些と位ゐ帶を堅く締めたからとて、ソレに向つて抗抵する力があるが、骨格の軟かい中は、酷く締めれば締めたなりに內臟までも影響を受くるに至る。併し是とても歐羅巴の婦人が用ゐて居る處の「コーセット」の樣に酷くはない。「コーセット」を酷く締めると、其害は實に恐るべきものであります。「コーセット」を締めた爲めに悉皆內臟の位置、身躰の形躰を變しで了ふ、其圖は茲に揭けて置きましたから御覽を願ひます、



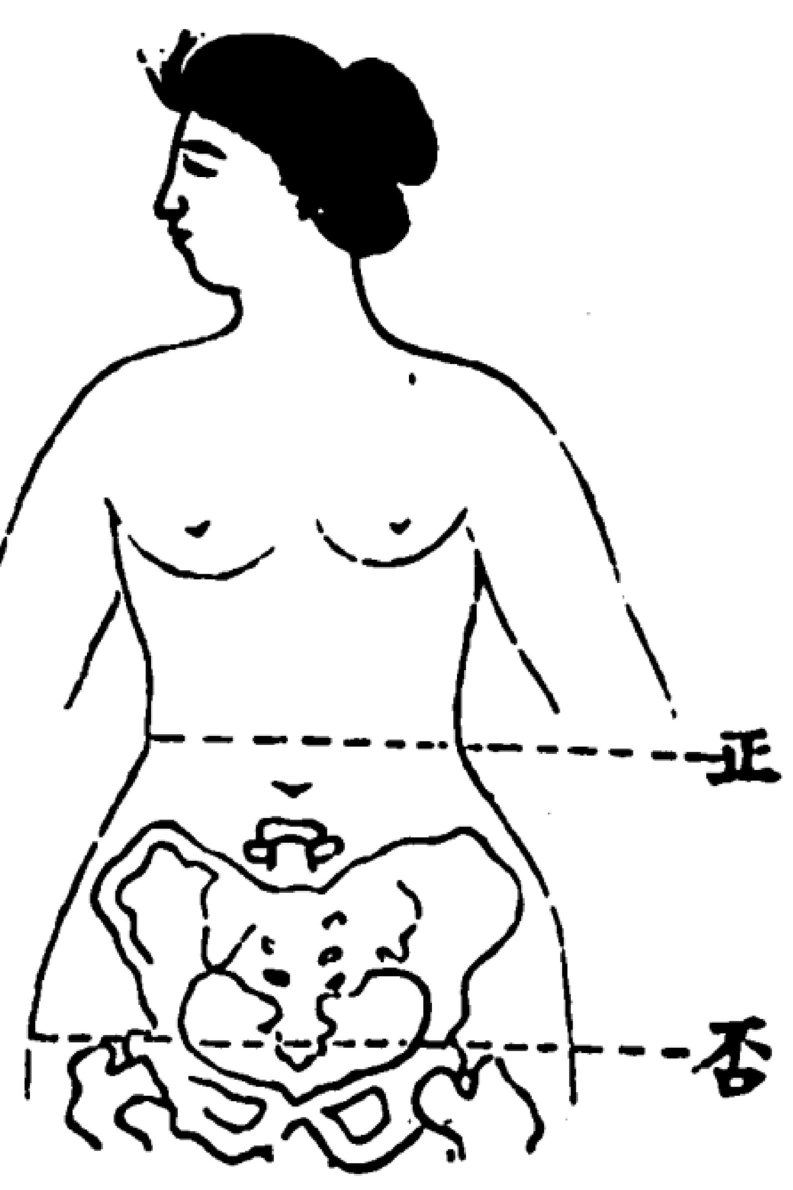
上の圖は、丁度佛蘭西の第一革命時代の貴女の姿で有ります。即ち「コーセット」の爲めにからだが悉皆畸形になつて了つた、是れは其頃の美人の標本といつても宜いのである。斯う云ふのを若し日本で形容したら「腰細のすがる少女」とでも申しませうか。なほ此下の方に揭げて有りますのは、是れが所謂醫學上の美人、醫學上から觀た處の美人のからだ、此圖と前の圖とを比較をすると、健康なる人の胸廓と「コーセット」を用ゐたものゝ胸廓と、どれだけ差があるかと云ふことが能く解る。ソコでモウ一ツ御話を致したいのは、私なども此比まで爾う云ふことを思つて居つたがベルッ先生の近年の經驗で、爾うでないと云ふことが解つたのである。此れ迄は一躰女子と云ふものは主に胸で呼吸をする、男子は腹で呼吸をするものだと云ふことになつて居た。是は西洋の學者も今まで其說を唱へて居る。即ち西洋の學者

の云ふのに女と云ふものは主に呼吸を胸でするものである、此が女の天然の呼吸だと云ふた。ソレで女の呼吸の仕方は男とは違つて居るといふことを言つて居つた。處が之は大へんの間違ひで、決して女子の呼吸の仕方でも、男子の呼吸の仕方でも、天然の呼吸の仕方に變りはない、孰れも主に腹でするのである、然らば何故に違うものと思つて居たかと云ふに、西洋の學者が西洋の女子の呼吸を見た時分には、「コーセット」で腹を締めて小さくした女の呼吸ばかりを見たので、西洋の學者も女子は胸で呼吸をするものだと斯う思つたけれども、是れは今の「コーセット」を強く緊めるとか、帶を締めるとか云ふことの爲めに、横膈膜と腹部の運動とを妨げられたので、據處なしに胸の方で息をして居るのであつた。此頃、日本の女子に就て、呼吸の運動を機械に因つて測りました、處が、帶を締めない女子に呼吸をさせて見ると、少しも男子と違ひない、矢張り腹が動いて、胸は餘り動かない、處で帶を締めると、女は無論の事、男でも胸で息をしなければならむやうになる。ソコで尙此研究を確める爲めに、此頃皆様の御承知の「レントゲン」の「エックス」光線に照らすと、活きて居る人の腹の中が解る、此光線に照して活きて居る人の身體の内部を見た處が、女子の呼吸をする時にも、矢張り帶を締めずに呼吸をさせて見れば、其横膈膜の動き方が、矢張り男子と同しことであつた。斯くの如く男子の呼吸も女子の呼吸も同じであるに。其違つて居ると思つたのは、女子が西洋では「コーセット」、日本でいへば帶を締める爲めに違つて居つたのだと云ふことが、明

かになつた。處で帶を堅く締めると云ふと、横膈膜の運動を妨げる、横膈膜の運動は單に呼吸の爲めに必要なるのみならず、腹の中の内臟の爲めに必要である、即ち其血行の上に大影響がある。若し横膈膜の作用を妨げるときは、内臟の中に血液が循環する運動が不十分になつて、自然と食物の消化を害し、其爲めに或は病氣を起し、或は女子に於ては内部の生殖器に欝血を起し、而してソレが爲めに、いろ〳〵の病氣に罹ります、此は少女と云はず、婦人と云はず、吾曹の澤山に見るところの事實であります、

御又振袖でありますが、矢張此年齢に達した處の娘に對しても、振袖は自然肩や胸の發育を妨げ、又自由活潑なる運動を妨げます。殊に撫肩の人は日本では好き姿としてある、男の樣に怒り肩の人は「どうも肩が怒つて居つて」といつて恥かしがる位である。處が撫肩の御嬢樣が、振袖を着ると御更斯う云ふ(學士は自から其態度を爲しつゝ)風になつて了まう。

斯の如く日本の女子の着物と云ふものは、色々不都合の事が有りますが、就中甚だしきは歩行に不利なることであります。第一に其當を得ぬのは、紐や帶を結ぶ位置が違つて居る、ソレは玆に掲げて置きました圖で御座いますが、日本の婦人の紐を緊めるのは丁度此處(圖に付て示されつゝ)……即ち腰骨の少し上の處、而して眞正に着物を着る時には、上下に四本の紐を要する、其中

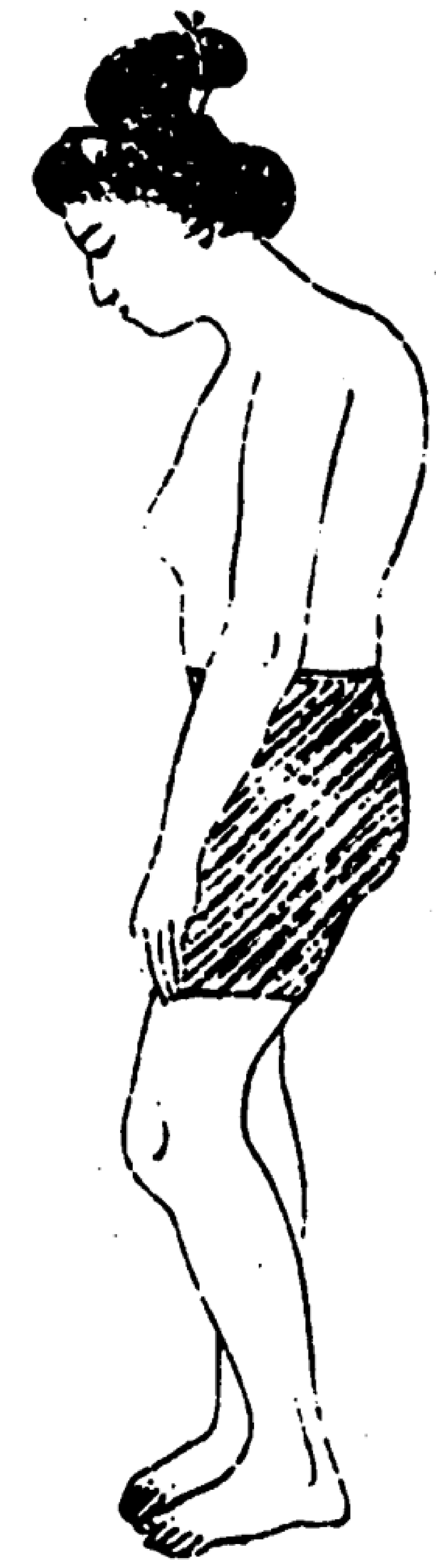


の一番下に締るのが腰紐で、是れは乃ちこの足の動く處の上を緊乎縛るから、到底自由に足を動かすとが出來ない。然らば那處に結んだなら少しも害が無かと云ふに、ソレは此處(圖に就て示されつつ)即ち臍の邊の腹に凹みの在る處、此處が帶紐を結ぶに適當の場所である。モウ一つ日本の女子の着物の缺點は、歩く時分に、着物が大腿と膝との邊に緊しく纒はり着くの一事です。女子の着衣を見るに先づ下前を斯ふ(手眞似にて其風を裝ひつゝ)持つて來て、復斯ふ(上前を左より右へ)持つて來て、腰のはづれを紐で結び留めて、それから又紐を締め帶を締めると云ふ次第故着物が自然上脚と膝とに纒まり着く、それで少しも自由に足を開くことが出來ないのです。一躰人の歩行するは足を眞直に蹈まへて、ソレより少しく外側に爪先の向くやうに歩まなければならぬ筈であるべきに、日本の女服は前申したやうな譯で迚も股を自由に開くことが出來ぬ、依て足の運動を妨げまして、當前に足を出すことが出來ないで、踵を外に、爪先を内側に向け、脚部を曲つて歩るく、正當に云へば實に醜い歩き方です。然れども之を古來の習慣として毫も怪まざるのみならず、偶々正しく歩く人があれば「あの人は女の癖に大股だ」とか「外輪」だとかいつて惡るく言ふ。斯う云ふ風な衣服の缺點がある爲に、日本の女子は歩く度に、裾が足に纒まるから足の方に餘計な荷物を脊負つて居るやうなものである、ソレ故に歩く時には僅に爪先迄地上より揭げて絶えず膝を半ば曲げて、腿と蹠とを擦りながら地面をすつて歩るくより外仕方が無い。(女子歩行の姿を所作にて示す)人間の

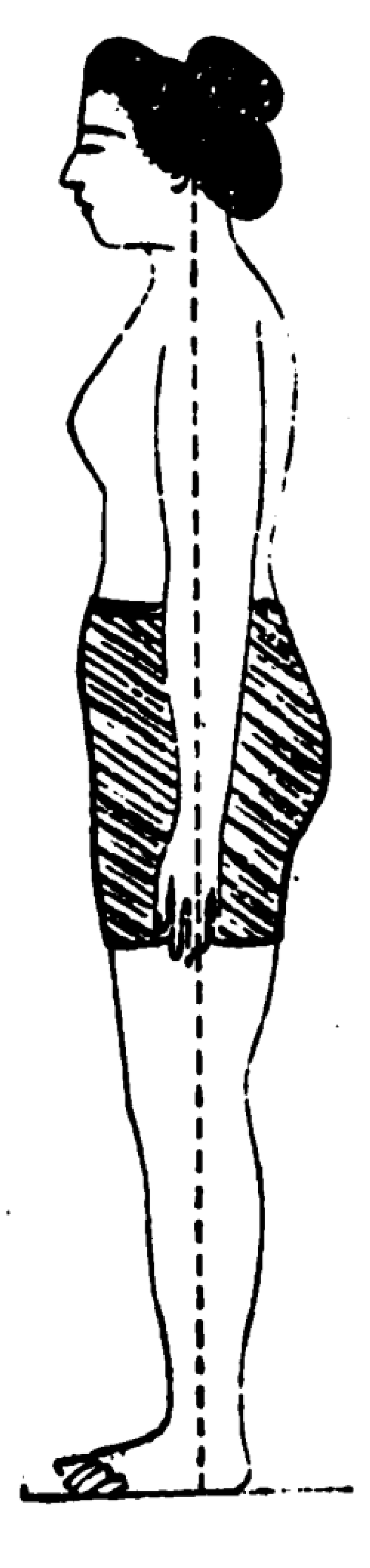
歩行は男女に拘らず爪先が中心より兩方に出るのが即ち外輪が當前であるのです。處が日本の女服では到底當前に歩行ことが出來ないのです。之を歩かうとすれば、褄をとるか。裾を開かねばならぬ。あなた方は始終ソレを見慣れて居らるゝから歩き方の正しいのと不正のと、其差が判然とは御解りになりますまいが、能く氣を附けて御覽になると分ります、

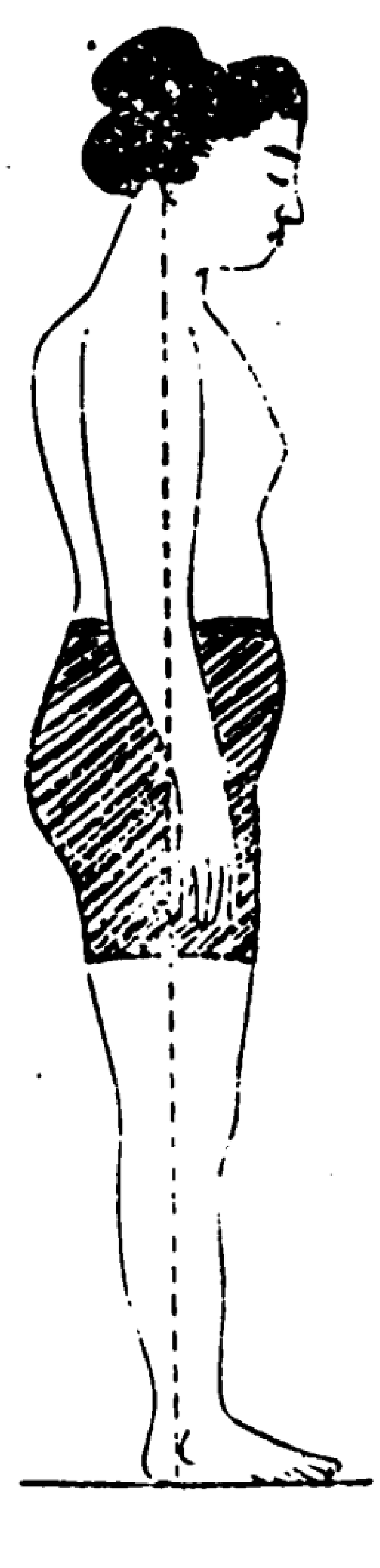
ソレから又日本の女子が眞個に盛裝をしたとき又は立派な衣服を着したとか云ふときに、裾を長く引き、巾廣き帶を締め、其上に袿でも着たときには何う云ふ風に歩くかと云ふに、禮服を着て、歩む姿は之を裸躰にして見ると、斯う云ふ風な形になります、(圖を示し、又女子の姿を所作にて示す)

ソレから又西洋の婦人を裸躰にして、眞直に立たして側の方から見まするると、斯う云ふ風に足が眞直になつて居る、



之に比較して日本の婦人を直立せしめて、側の方から見まするると、斯う云ふ風である、





一寸此圖のみで御覽になると、區別が解らないが、足が是れだけ曲つて居る、(定規を以て圖に當つて其曲直の差あることを證明せらる)殊に差の有るのは、膝です。西洋の婦人は膝が眞直になつて

居るのが、日本婦人は膝の上下が引込んで、膝頭が飛び出して居る。モウ一つ殊に差の甚しいのは足ですがそれが爲め、日本婦人の躰は自ら前の方に曲つて居ります。是も自分では解りませぬ。併しながら足の曲つて居るのなどは、湯にでも這入る時に、自分で氣を附けて御覽になると、解ります、

ソレから此衣服の事に就て、モウ一つ言つて置かなければならないのは、日本の女子の衣服の端折といふものは、どう云ふものであるかと云ふに(之に依つて腰部の大なる部分に衣服の融通をつける理由もあり)着物を引くときには此端折を降して長くし、又歩るくときには、端折つて置く爲めに附いて居るものである。ソレ故に日本の女子が衣服を着る時には、始めに上の方はどうなつても一向搆はずに、先づ褄尖を揃へ下の腰紐を緊めて、此處(端折の少し上)のところは好い加減に瞞着して置く。ソレ故に紐を以て腰を強く緊めるばかりでなく、端折の餘りたる襞まで、皆腰の處にたぐめて置いて、益々此邊(腰)の運動を妨げる、即ち其處のだく〳〵の始末を附ける爲めに、紐が幾本も要るので、又帶を締た上でも、脊負揚げ、パチンと云ふやうに澤山の紐を結び附ける。此端折の爲めに運動を妨げることも亦實に非常なもの、それ故に平素戸内に在つて裾を引くやうな生活をしないものは、何も別に端折を拵へなくても宜い、端折をする必要のない婦人は、始めから男衣の樣に着だけに仕立て丶了へば宜い。禮服は長くして置く必要もあるが、通常の着物は始めから着丈に拵へても差支へはない何も此處に衣服の貯蓄をし

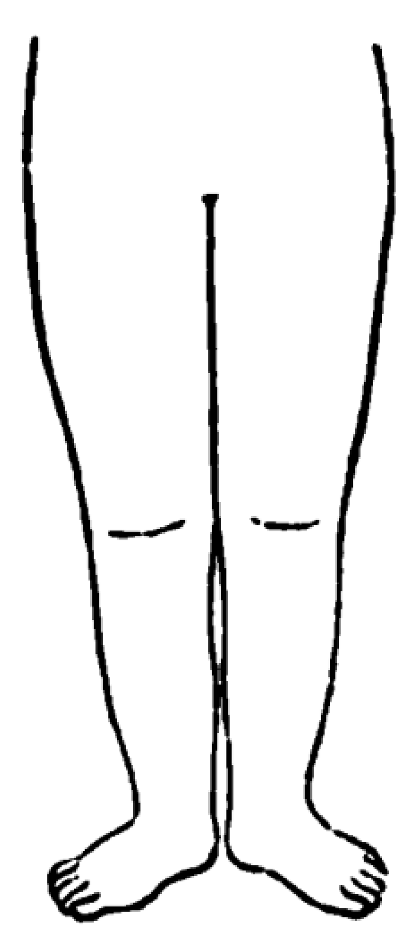
て置くには及ばない。是れだけはどうぞ速かに、明日からでも廢して戴きたい、古の女子の衣服を見ると、決して端折は無かつた、端折が無くても少しも差支はない故廢すに如くはない、

次には穿物で有ります、日本の穿物は餘程不便である、成程日本風の疊敷の住ゐをして居る處に靴で昇り降りは出來ませぬ、けれども今の下駄草履と云ふものも、甚だ不便なものである。殊に下駄草履は步行の上には餘ほど困難を感ずるものである。何故かと云ふに下駄にせよ、草履にせよ、步く時に踵の運動に伴はぬ。人間の足は步るく時分には踵が反へるものである、然るに下駄草履と云ふものは少しも反へりのないものである、仍で足だけに下駄や草履の上で反して居る都合になる、ソレ故に大へんに穿き惡いのです。穿物は總て足袋足に合はせて拵へたのが一番宜い。若しも草履や下駄を穿いて居ると、今申す如く踵が反へるのみで下は少しも動かない。ソコで我步く時には足だけを反さなければならないから、一躰に足が內側の方に捩れて、而して足の裏から踵の方に掛けても、少し出る、ソレであるから自然と足の內側の踝がヒョコンと飛び出して居る。西洋の婦人の足は眞直で內側も外側も違はないが、日本の女子の足を見ますると踝がヒョコンと飛び出して居る、是れは穿物の爲めに捩ぢれるので、骨が內側に出ざるを得ぬので有ります。之を漢文で言ふと「飛び出さゞらむと欲すと雖ども得べからず」と云ふ處で有りませう。私は今月の一日に華族女學校の運動會を觀に往つた處が、其時に運動會を觀て居りまするど、靴を穿いた御姫樣がいつでも勝つ、

動作が活溌で、足が疾くて、常に何を遣つても靴を穿いた御姫樣が勝つに極つて居る。處で其靴は普通の西洋婦人の穿く底の高い、踵の細い靴で運動靴ではない、ソレにも拘らず毎でも勝つ、ソレで草履を穿いた御姫樣に比べると大へんに疾く、力も強く、活溌で其間に非常な差を生ずる、之にても穿物の直接の利害が判るです。

殊に下駄の中でも足駄と云ふやうなものは極めて足の運動に伴ひません。併ながら日本の東京の樣な路の惡るい處で、足駄を廢めることは到底出來ませぬ。足駄を穿くことの不便は、凡そ下駄を穿いたこともない外國人などでは少しも歩けるものではない。餘計な談であるが、横濱の或外國人は、足駄を穿いて一町の處を往復するのと、煮豆を五十粒箸で挾んで食べるのとの競爭をしたことがあると云ふ話がある位です。馴れないものが足駄を穿くといふのはなか／＼むづかしい事である。然るに近來は足駄が益々高くなつて來た、是れも序でながら御話して置きます、

之を要するに衣服穿物、モウ一つは膝を折つて坐ると云ふ此三つの事を合せて、日本の女子が、今御目に懸ける處の圖に示す如き不都合なる躰格となつたと斷言するを憚りませぬ。其不都合の形はどう云ふものかと云ふに、普通の體格と筋肉とを具へた婦人が、踵を揃へて立ちますと、斯う云ふ



樣に大腿と大腿との間には少しも隙が無い、膝の少し下の處には腓腸筋の頭の所まで僅かの隙が出來て、ソレから腓腸筋の腹の下から踝までの間に隙が出來る、……是れ

が先づ日本否世界各國の普通の體格を具へた女子の足で有ります。併ながら此の如きは日本の婦人には珍らしいので有ります。之に反して此方の圖は通常より少し丈の高い瘦せた人の型である。ソ



レ故に脛が割合に高い、けれども是れも能く日本婦人の足の形狀を現はした、これで見ると第一に大腿の間に隙が出來て居る、此と云ふのは元來大腿骨も曲がつて居るからで、それから膝の處から髁の間には非常に大きな隙が出來て居る、此處(姿勢を示す)が外に斯うなつて居ると、同時に此處(姿勢を示す)が斯うなつて、なほ髁が飛び出して居るので、髁の下の處にまで隙が出來て居る。而して殊に著しき點のあるのは膝で有ります。外國の婦人は眞直に立つと、腿から足の先まで正しく斜に眞直になつて居る。然るに日本の婦人は此處(膝)まで來ると膝頭が飛び出して、脚が曲つて居ります。此圖は前から見たので有りますが、つまり斯う云ふ樣な婦人を眞直に立たして、側から見れば、斯う(前に掲げたる全身を示せる日本婦人の圖を指して)なつて居るのであります。膝の骨が斯う飛び出して、脚が曲つて、又髁が突出して居る。一躰髁などゝ云ふものは、男兒は脂肪が少ないから出て居るが、女子には出づべきものではない、然るに日本の婦人のは、歐羅巴の男子よりは髁が著しく見える位ゐで有ります、(以上は一々圖に就て比較說明せられたるものにて其詳細を盡すを得ず、讀者之を諒せよ)

ソレからモウ一つ坐ると云ふことは、餘程不都合

の事である、此坐ると云ふことの爲めに、足及び骨盤などの血液の循環を妨ぐ。ソレから足と骨盤との血液の循環を妨げる結果、骨盤の中に血液が停滯し、欝血して、從つて子宮病、消化器病とか云ふやうなものを發します、

是れまで段々御話を致しましたが、只是れまでの樣な御話をして居ると、私が唯皆樣に向つて叱言を言つて居るのみの樣である。それなら何うしたら宜いか、御前の意見を聽きたい、と必ず被仰るに違ひない。其時に私は答へて申しまするのには、私は日本の女子の衣服に、不完全の箇所が有るからといつて、さればとて決して皆樣に西洋の女服を御着なさい、と云つて御勸めをする譯ではないと。云ふのは、西洋の女服は日本の婦人には似合うものと似合はむものとが有る。又費用も懸り、從つて家も其樣な裝置にしなければならない。其他總ての風俗を變へなければならむから、今遽に之を皆樣に爾うなさいと御勸めをする譯には往かない。併ながら日本の女子の健康を進めやうと云ふには、どうしても現今の女服を改正しなければならない。處が女服を改正すると云ふことに至つては、是れはどうも男子が喙を容れべき事ではない、何故なれば男子が喙を容れますると、自然男子の方に都合の好い事を條件として持ち出すから「夫れはあなたの被仰るのは宜いかも知れませぬが、斯く／＼の不都合があつて、日本の女子には適しませぬ」と云ふ御詞が出ぬかも知れない。故に一躰女服の改正問題には男子は關はらないが宜しいので、女子の中に於て、御研究を成さるのが然るべきことで有らうと思ふ。併ながら男

子に於ても其儘衝き離して仕舞つて顧みないといふのも、餘り不深切故、取捨は貴女方の御隨意として、先づ私は私だけの意見を述べて見やうと思ひます、

第一、　第一の希望は、帶は往時のやうに巾を狹くして、地質の軟かいものを締めて戴きたい。而して此事は特に年齢の少き女子に向つて必要の事である。近頃のやうに、巾の廣い帶を竪やの字に結んで、まるで武裝をした樣な風をするのは、女子の身躰の發育を妨げます、

第二、　袖はどうしても短かくしなければならない。ソレは元祿の古に戻つて改正をして貰ひたい、即ち袖を短かくしますると、袖口の下が狹く、振の方が幾らか潤くなつて居つて、自然袖の重みが手首の方に懸らないで、袖の爲めに手の運動を妨げらるゝ恐れが有りませぬ。即ち其形は此書(祐信筆美人畫前に在り)の如きもので、斯う云ふ袖の短き衣服を着ても、決して見惡いことはない。或は見馴れぬ間は多少見惡いかも知れないが、馴るれば決して見惡いことはない。帶も巾は狹くても少しも見惡いことはない。ソレから端折を廢して仕舞ひたい、是等の事は敢て今日私共が只珍らしいことを言はふと云ふのではない、只元祿の古に戻つて、女服の改正をすると云ふ事にしたら少しも批難をすることはない筈です。私思ふに、近來は大分いろ〱粧飾に關することが、往時に戻つた、其一例は、あの「ハコセコ」と云ふものゝ如きも其一つです。あれは實に私共が見ると、何の用になるのか、殆ど邪魔のやうに思ふが、近頃は大へんに流行て、「ハコセコ」を持たないもの

は、立派ではないやうな有様である、あの様な装飾品でさへ、往時に戻つて御用ゐになる位ゐの勇氣ある婦人方故、衛生上から觀察して苟も利益の有ることとならば、元祿時代に戻つて衣服の改正をする位ゐは何の譯もない噺でありマす、

第三、小兒の附紐、是れは何うか巾を廣くして、結ぶ位置は脇開けより下即ち此處に御目に懸けた圖(小兒半身の圖前に在り)の如く適當の處に締めるやうにしなければならない、

第四、大人の帶と雖も、胴より下の方に結ぶやうに拵へなければならない、

第五　今日の足に纏る處の衣服の缺點を補うのがなか／＼の大問題である、足に纏はらぬ樣に衣服を拵へるには、餘程衣服の上に大改革をしなければならない、私は此點に向つては、只足に纏はらぬ樣に衣服を御造りなさいと申上げて、其他の工夫は一切婦人方に御任せをするつもりで有ります、

第六　學校の女生徒に袴を穿かせると云ふことは、今日の衣服からいふと、餘程宜いことである、併し折角袴を穿いても、下に通常の着物を着て、在來の帶を締めては何にもならないから、若し袴を穿くには衣服の丈は膝位ゐにしなければならない、

第八　結髮の事、日本の女子の髷は、活潑の運動をするのに適せぬ。日本の髷を結つて居れば、縱ひ丸髷でも、島田髷でも、結び髪でも、少し烈しい運動をするとペク／＼になり、馬などに乘ると、一丁も往かぬ、中に解けて了ひますから、どうしても日本の髷では運動は出來ない。仍で束髪はど

うか是れは長面の人には能く似合うが、丸顔の人には何とか結ひ方を少し變へなければならないと云ふやうな點もあれど、これも只ソッと載せたばかりでは頽れますから、何とか工夫をしなければならない、

以上八ッつの事柄が、日本の女服改正に就て、私が御婦人方に向つて、御忠告をする要點で有ります、

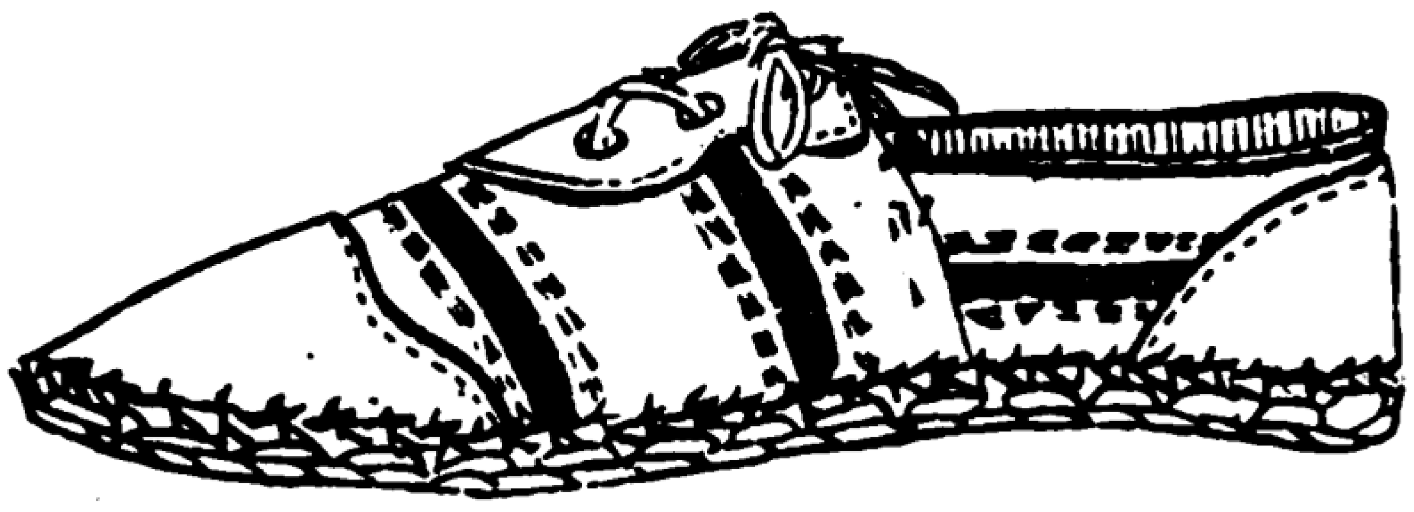
次には女子の健康を保護することに就て御話をしやうと思ふ、此女子の健康を進めることに就ては、近來諸方の學校等でも、色々研究をして居る。例之ば華族女學校で行つて居る遊戯、或は此學校（女子高等師範學校）で坪井君の敎へて居らるゝ躰操遊戯なども、大へんに好く出來て居る。又日本體育會では女子部を置いて、今後益々女子の躰育を奬勵すると云ふことである。されば女子の躰育の事も、漸々と進歩をして往くに違ひない、どうか是等の事業が愈々進歩奬勵せられて、而して躰育を盛にせられんことは私の最も希望するところである。躰育を盛にすると、大へんに精神も活潑に、擧動も活潑になり、餘程愉快を感ずると云ふやうなことを、多くの人が了解し、且つ之を好むと云ふ樣にしたならば、益々躰育の必要を廣く世人に知らしむることが出來やうと思ひます。仍で今度出來ました日本體育會の女子部の如きものは、進んで此事を講究して、女子部の會員、殊に委員となつて居らるゝ人達は、先づ自ら奮つて躰操なり、遊戯なりを試みて、之を一般の會員、或は世間の婦人にも示し、又已れの兒女等にも敎へて、身躰の健康を計らなければならぬ。是等の

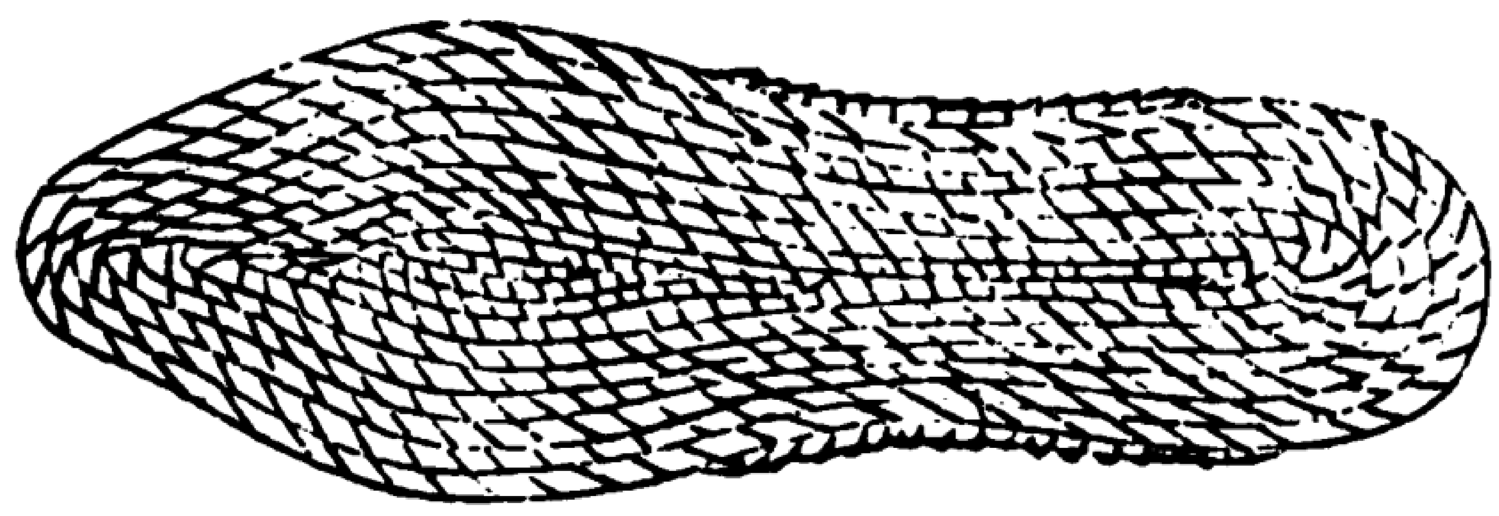
事は、我々が日本體育會の爲めに切に望む處である。而して是等體育の方法の如きものは迚も今日此席に於て、御話をして居る譯には參りませぬ、加ふるに其體育の方法は、其人の年齡、體格、職業等に由り、斟酌しなければならぬ事故、ソレ等の詳細の事は、何れ他日機會を得て、日本體育會女子部の席上で御話をしやうと思ふ。倘ほ幸に今日御集會の席上で御目に懸けたいものが一つ二つ有ります、

其一つはホワイトレー氏の體操機械で有ります、(實物を裝置して示さる)此れは素よりベルツ先生が自分で運動をする爲めに取寄せられたので、是れは婦人用ではない、婦人の用ゐるのはモッと華奢なのが出來て居ります。此價は九圓五十錢で、皆樣が金の指環を御求めになるよりは遙かに廉く、而して之に賴つて得る利益は金剛石の指環より大なるもので有ります。次に此は護謨製で、伸縮自在でありますから、何う云ふ運動でも出來ます、今烏渡其用ゐ方だけを御目に懸けませう(實驗して示さる)此機械にはソレソレ運動をする處の圖も附いて居ります、此機械を用ゐますには、別に廣い運動場も、要りませぬので、どの樣な狹い所でも適宜の柱に持ッて往つて裝置することが自由に出來ます、故に平生は邪魔にもならないもので、體操をしたいときは、手輕く出來ますから大へんに便利で有ります、

モウ一つは靴で有ります、是れは此頃市中で買つたので有りますが、此靴は前に云ふ如く底が平らで、踵が輕くて、足の思ふ通りに自由に動いて、體操遊戲には最も適當である。此品は何處で作つ

たものか解りませぬが、底は麻で厚く造られ、さうして赤い布で出來て居つて、なか／＼躰裁も宜





い。そして其價は僅かに六十五錢、日本の足袋を買つても、厚裏の紺足袋であると四、五十錢は致します、ソレに比較すれば大へんに廉い。之を穿いて居れば、足の通りに附着いて動きまして、如何なる活潑な運動でも出來る、體操をする時には、斯う云ふ風なものを穿いてする樣に願ひたい。又女學校などでも斯う云ふ樣な靴を穿く樣に望みます、是れならば見た處の躰裁も好いから、御孃樣方が厭だと思召すことも無からうと思ふて、御目に懸けたので有ります、

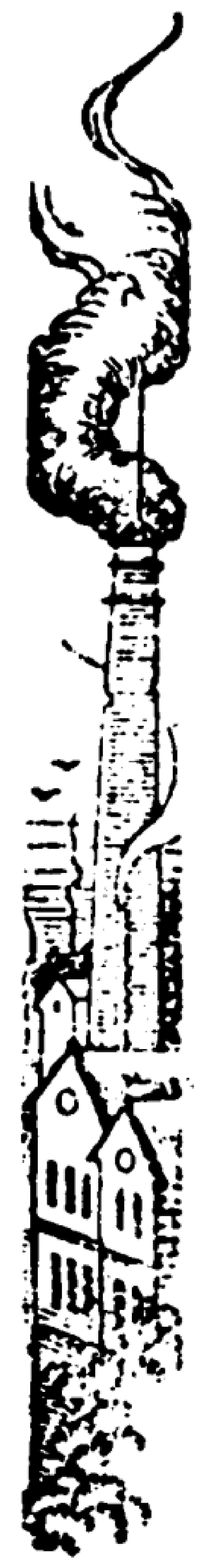
餘り長くなりますから、成るべく端折つて御話をしますが、特に學校の女生徒、諸君の如きは、日々普通の定まつた體操時間の外に、一人で體操場に出て暇があつたら體操をするやうにしなければならない、殊に仕事をして後、夜寢に就ても眠られなくなつたとか、或は神經過敏になつた時には、就褥前十五分間體操場に往つて、思ふ儘に運動をすると、其効能は麻睡劑を飲むよりも確かで有ります。ソレ故に學校の方でも始終體操場を開けて置いて、生徒に自由に遣はせる樣にしなければな

らない、
ソレから固より此學校には、定まつた課目の躰操も有り、又先生も附いて居らるゝ事故、其課業の躰操は是非遣らなければならない。ソレから遊戯も殊に必要で、學校に於ては許す限り遊戯もしなければならない。遊戯の中には、自ら規律も有り、各自受持の仕事もあつて、遊戯をして居る中に自然と教育上の利益も得られますから、さう云ふ樣な遊戯を兒女等に應用しなければならない。ソレから躰操をするときには、平常の服では出來ませぬから、豫め運動服を造ッて置いて、躰操をするときには、其服に着換えるやうに致したい。即ち日本の衣服であるならば、膝切にして袴を穿き。西洋服ならば、短かき服を着て遣らなければならない、

先づ大體の御話は是れだけに止めます。まだありますが余り長くなりますから畧します。要するに、私が諸子に希望する處は、貴女方が何卒卒先して自ら手本と爲つて、自分にも行ひ人にも示し、女子の體育の進歩する樣に希望致します。固より私は女子躰育を希望するからと申しても、日本の女子をして、悉く古の巴御前や、板額のやうにしやうと云ふのではない、又徃時の官女、御殿女中の樣にしやうと云ふのでは固よりない。畢竟貴女方御自身が健康に、生活が愉快で、將來强壯なる母となつて、强壯なる子を生み、自ら其子を教育する任に當られんことを希望するので有ります。仍でベル―ツ先生の演述は未だ色々澤山に在りますが、大へんに長くなりましたから、今日殘念ながら是れで終ります。誠に皆樣が長い間能

く御清聽下すつたので、代つて演說をした私の榮譽は、誠に大なるもので有ります、併ながら私の不學不辨なるが爲めに、ベルツ先生の意見を、或は誤つて傳へたることが有りましたならば、此段は偏に諸君の御宥恕を冀ひます、今や貴女方の將來の多福健康を祈つて、此演壇を下だります、(完)拍手喝采

代演者云く本演說は聽者の理會に容易ならしめん爲めベルツ氏の說を或は敷衍し又は潤飾し其他必要と認めたる例を隨意に引用したるところあり幸に恕せよ



●萬國平和會議に關する披露

醫學博士　大澤岳太郎君演說

私は大澤岳太郎と申すもので御座います、御承知の通り近頃歐羅巴で萬國平和會議といふのが出來ました、ソレ故日本の政府からも目下彼の地に居られる公使其外我國より委員を出されてありまする、此萬國平和會議と申すのはどう云ふ事を致すかと云ふに、是れは近來各國共に競ふて兵備を隆に致すと云ふのは何の爲めであるかと云ふに、矢張戰爭を發す支度である、一體此戰爭を致すと云ふことは人間に對して誠に甚だしき不利益である、而して戰爭のため世の開化を妨げる事も大へん有る、又ソレが爲め貴い處の身命を喪ふものも非常である、ソレ故此戰爭と云ふものを世界で廢し、若し戰爭をしなければならない場合があれ

ば、是れは言論に訴へて其是非曲直を正すことにしたが宜からうと云ふことから起つたので有ります、勿論此考へは今日遽かに起つたのではない、久しき以前よりして教育あるものは其考へを持つて居つたので有りまするが、殊に此度露西亞の皇帝が發議せられて、世界の人が集つて萬國平和會議を開くに至りましたので有ります、此事は非常にどうも我人間に向つて、人間社會の歴史に向つて非常な進歩である、故に歐羅巴各國に於きましては、婦人方は非常に此事を贊成して居るので有ります、ソレで此會が來る今月の十八日に和蘭の海牙の市で開かれるから、歐羅巴各國の婦人は來る十五日に各々の御國に於て、婦人方を集めて而して萬國平和會議に贊成する意志を確め、ソレを今度は一束にして、和蘭の海牙の本會議に婦人の意見として贊成の意見を述べることにしたと云ふことで有ります、而して其和蘭で開く會議に、萬國婦人の代表者として出る人は和蘭國の女王樣を奉ると云ふことである、右の如くに歐羅巴では婦人が此事に就て騷いで、獨逸英吉利は勿論、悉く其事に贊成をして、特り歐羅巴ばかりでなく、普く世界の婦人からも之に贊成せらるゝ樣に致したいと云ふので、私方に態々獨逸の婦人會の部長である處の御方から手紙を寄せられて、どうか日本の婦人にも此事を贊成されて、共に我々と力を盡される樣に致したいと云ふことで有りまするです、ソレで一體私は大學の教授を致して居るものでありまして、未だ世間に廣く交際も無いので有ります、なほ其外にも種々なる用事が有りまするので、さう云ふことに向つて盡力を致すこ

とは、ながく心に思ふ様には屆かぬので有ります、故に此事は寧ろ斷つてしまうかと存じましたが、翻つて考ふれば、遙々歐羅巴より賴まれた事を、無氣に謝絶するのは大に不本意でも有り、又我邦の御婦人方も近來は婦人社會の言論が盛になつて、婦人の言論自由を擴張するやうな聲が高まつて居る處で、婦人方を中にはなか／＼有力の御方も多く有りまするのに、ソレ等の事をも顧みず、私が自個の我儘勝手を以て、此歐羅巴よりの通信のことを一應御話もせずに、自分一個の專斷を以て計らうのは、皆樣に對して甚だ濟まぬことで有らうと思ひました故、幸ひ今日此會の開かるゝことを承つて態々出まして其萬國平和會議に就て、萬國の婦人が贊成をする爲めに會議を開くに付いて、ソレに日本の婦人方も加つて呉れと云ふ先方の賴みを御披露して、皆樣の御贊成を願いたいと存じます、是れは御贊成をなされたとても、別に金の要ることもなし、只婦人か一人でも多く、海洋の外に於て應援をすると云ふだけのことで、此萬國平和會議に就ては婦人の方は是れだけのことを冀望すると云ふ畢意その冀望者の中に御加名下されば宜いので有りますから、何卒此事には廣く御贊成あらむ事を望みます、詳しくはいづれ私も暇を見て新聞や雜誌に寄書して廣く世の中に知らせたいと思ふて居ります、今日は單是れだけを一寸と御披露を申しました、



寄書

◎本誌第百十四號中結核病に就ての誤正

Dr S. N.

前號即第百十四號寄書欄内中結核病に就ての説明中虎列剌菌と結核菌とを混同したるは全くの書損誤謬なりをもて左に正誤　旁　猶結核病に就て注意を加ふることと左の如し

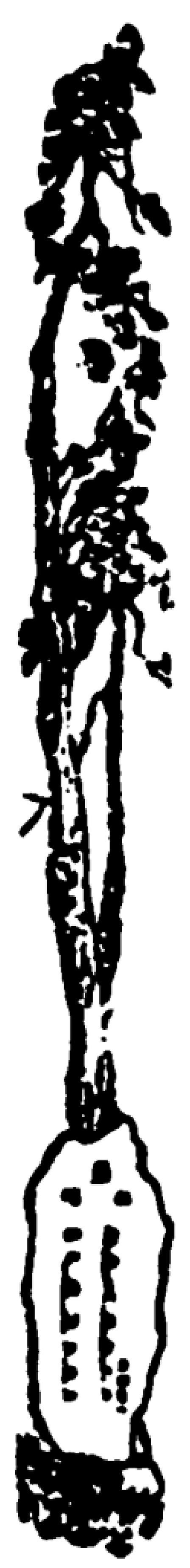
一、最も恐るべき結核病とあるは最も恐るべきは結核病の　誤

二、右記事中（第二十一ページ八行に於て）「其形コンマ（，）様なるが故に結核菌又はコンマ菌と稱す」とあるは全く誤謬にしてこれは虎列拉の病菌を云ひ現はしたるものなるが故に此部は抹殺し更めて左に結核菌の形狀を略記す

結核菌の形狀

結核病の病原は結核菌と稱する極めて微細なる小體にして固より顯微鏡下に於て驗査するに非ざれば見ることと能はざるものなり而して此病菌は西暦一千八百八十二年（我明治十五年）の三月獨逸國の學者コッホ氏か一の學會に於て發見の成績を公にしたるを以て創めとす換言すれば此病菌はコッホ氏の發見


鶴は千年の齡



したるものにして其形は虎列拉病菌の（ ）様の菌とは異なり細長く兩端は丸くして人間の血液中に存在する赤血球に比較すれば此より稍々小形なり此細長き菌は眞直ぐなること稀にして提琴の弓の如く屈曲すること多く顯微鏡を以て見るときは各個に散在し亦は二三相連り或は多數集合しあるものなり此病菌を痰、大便又は膿などの內より顯微鏡を以て見出すは敢て困難なるものにあらず今日は都鄙の差別なく何れの地に於ても容易に驗査し能ふか故に結核病の初期にあらざるやなきやの疑を起すときは直ちに醫師の驗査を受くるを得策とす若し万一にも此結核菌の痰、大便中に存在するときは如何に少しと雖も決して油斷すべからす他辨は打棄て可及的の療治を施し他日臍を噛むことなからんことを望む、

中外彙報

東京市消毒所の依托消毒

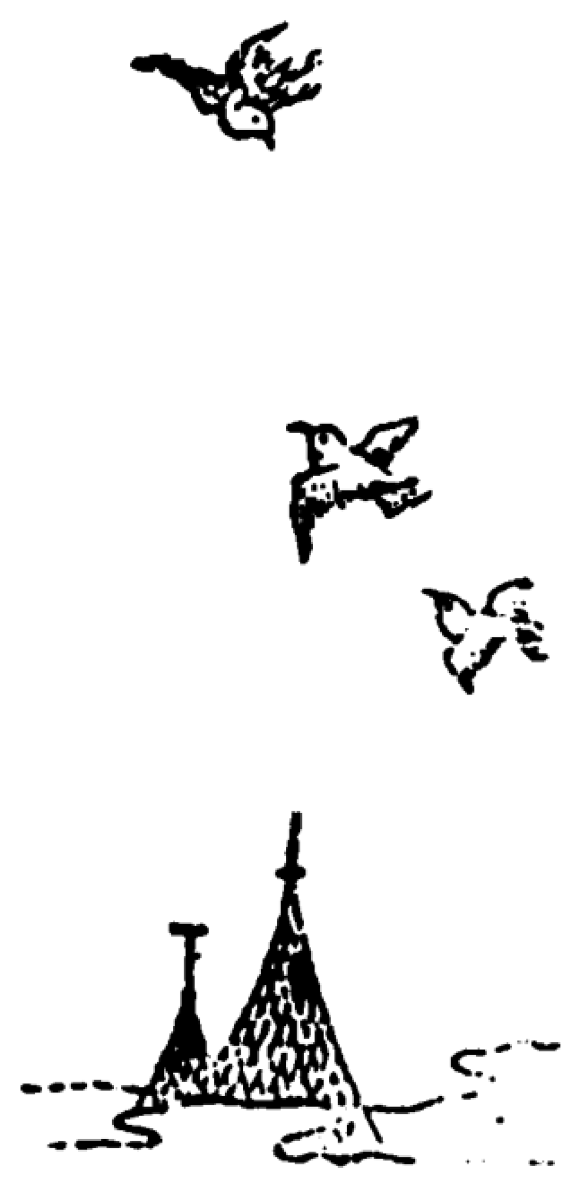
東京市長は區役所消毒所に訓令を發したるか深川大工町の東京市消毒所は各傳染病院並に區役所衛生主任の手を經て送付し來る物品の消毒は勿論倚一般公衆の依賴に應じて消毒を爲すの事にて今回は消毒取扱手續きを至極簡短になし一個人にて消毒を依賴せんとするものは區役所の衛生主任に申出で又は消毒所に申出でをなすとも物品は區役所の手を經て送付して處辨することゝなりたれば是迄と殊なり手輕に依賴することを得べし

○トラホーム流行　西多摩郡青梅町及五日市小學校は近來流行眼病蔓延し休校するに至りたるが三島文部省衛生主事は岸

田醫學士と共に實況視察として出張せられたるが聞く處によれば始め生徒に一名の患者發生せしが一週日の内に二十名に傳染し三週日にして生徒總數六百四十三名の中三百五名の患者を出すに至りたりといふ

○府下生徒の眼病　府下の各小學校生徒其他にてトラホーム類似の眼病に罹るもの近來極めて多く中には「トラホーム」に非ざるものを誤認するものなきに非さるべきも兎に角生徒に眼病の多きは事實なり今各郡長より府知事へ報告したる調査によれば左の如しと

日本橋區	五十四人	小石川區	七十一人
本郷區	五百七十九人	淺草區	百四十五人
北豐島郡	六十五人	本所區	壹人
荏原郡	十三人	西多摩郡	三百四十七人



○郡部の眼病　豐多摩郡大久保學校にては總員二百五十二人の内患者百四十三人あり挑園學校にても總員六百名の内五十二人千住警察所管内に於ても鐘ヶ淵紡績會社に十八名隅田小學に十五名本田小學に十七名綾瀬村小學校内に十八人にして尚蔓延の兆ありとの事なれば患者發生の場合には決して交通すべからす

○トラホームと湯屋　青梅町に於けるトラホームの流行は實に甚だしきものなるが特に郡部の湯屋は東京と違ひ上り湯なきは病毒蔓延の一原因なるへしと東京府の掛官は同郡へ出張の上尚探究の上豫防法を厲行すべしといふ

○府下赤痢患者　去る十二日都下に於ける現在の赤痢患者は市部に九十一名郡部に三十二名追々蔓延の兆あり

○牛乳及ラム子の臨撿　警視廳第三部に於ては衛生上必要として廿四年四月廳令に基き牛乳の良否を最寄巡査派出所に試驗器及技師を派遣して臨檢をなし牛乳及ラム子等屢々不良のものを發見するに至り益々之れを厲行しつゝある由なれば牛乳搾取營業者非常に恐慌を來し今更の如くメリケン粉、コンデンスミルク等混合することは當分見合せたりと見え此頃の牛乳及ラム子は良好なるを覺ゆドーカ年中此等飲食物の撿査は充分厲行せられたきものなり



○本年の赤痢　昨年は一昨年の後を受けて九万の患者を出せしが本年一月より五月三十一日迄の全國患者千百二十七名にして昨年の同時代に比すれば三百九十六名の增加なれば此割合によるときは本年は先づ十万以上大流行を來すべき虞れあり御用心々々

○黒死病流行地認定　上海領事館は廣東、澳門、及厦門を黒死病流行地と認め出入の船舶に對し檢疫施行の事に決定せりといふ



萬國婦人平和會加盟之辨

萬國平和會は露帝の發議に係り今や各國委員を和蘭國ヘーグ府に派して露國の提議に對し評議中にあり固より世界の大問題なれば各國委員の提議要求も續出すべく實行迄には中々に困難もあるべければ其結果の如何に評決すべきかは豫め知り得べからずと云へども兎に角平和其物をして永遠に繼續せしめんとする露國の提議は今代に於ける一大擧として注目すべきの出來事なりとす

此頃獨逸國セレンカ婦人は遙かに書を醫學博士大澤岳太郎氏に寄せて日本婦人の賛同を求めたり氏の之を披露せられしは去月十三日本會例會の席上を以て始めとす爾後本邦婦人の團躰はより〳〵評議を凝らしたるが平和冀望の一點に於ては何人も不同意あるべき理なしといへども其實行の覺束なきに之に同意するは輕躁なりとの説ありしかど何樣目下評議中の事とて各國の委員すらも如何に成り行くものやを知らざるの今日其結果を氣遣ひて賛同せざれば平和其者に不同意の嫌ありて婦人の稟性に悖るとの説は尤も勢力ありて遂に各團躰

の委員は躊躇することなく賛同の意を表することに決したり茲に於て平和會事務所を麹町に設け趣意書、説明書、辨明書等を配布して本邦婦人の賛同を求めたり本會に於ては濱尾副會長、高木、宮下兩幹事委員となりて會員諸氏の賛同を圖られしが各團躰婦人の賛するもの忽にして無慮六千四百七十一人の多きに達たれば去る十日の船便により歐米なる婦人平和會へ賛同の意を公表したりといふ

因に記　尙地方部婦人の團躰より遲ればせに賛同を申込むもの尠からず今や二三千人の多きに及びたれば近日尙二回賛同者として發送すべしといふ



萬國婦人平和會に加盟するの趣意書

兵燹の慘毒は喋々論ずるを待たず人の子を孤にし人の妻を寡にし和樂團欒の家庭を變じて悲傷寂寥の荒況を呈せしめ田園を荒らし資本を沽らし商工は萎み學藝は衰ふ人類の不幸社會の禍害蓋し戰爭に過ぐる者あらず

戰爭の準備は兵力の競爭となり各國互に國力を消耗して之を兵備に傾け平和の人民平和の技術之が犧牲たらんとす是れ豈各國の本意人民の素志ならんや唯其競爭の結果勢己むを得ざるに出づるなり

先きに露帝陛下の提議あり列國政府皇帝の誠意を諒し各々委員を派して和蘭國海牙府に會同協議せしめらる我等平和を好愛する婦人の稟性を以て此擧の極めて世界の進步に利益あるを感し仁慈なる露帝の提案と賢明なる各國委員の協議により戰爭の禍害を滅殺し人類社會の福祉を增加するの結果に至らんことを希望し茲に萬國婦人平和會に對し賛同の意を表せんとす

大日本婦人教育會々長
福田會惠愛部々長　公爵　毛利元昭母安子
大日本婦人教育會副會長
侯爵夫人　鍋島　榮子
侯爵夫人　大山　捨松
伯爵夫人　大隈　綾子
伯爵夫人　樺山登茂子

伯爵夫人　土方　龜子
子爵夫人　田中伊與子
男爵夫人　川口　直子
島田三郎夫人　のぶ子
澁澤榮一夫人　兼子
大倉喜八郎夫人　德子
醫學博士大澤謙二夫人作子
醫學博士大澤岳太郎夫人從子

大日本婦人教育會　幹事　松本荻江
仝　幹事　山脇ふさ子
大日本人婦人衞生會副會長　濱尾さく子
仝　幹事　高木かう子
仝　幹事　宮下さき子
大日本女學會　幹事　鳩山はる子
仝　幹事　片山かめ子
東京慈惠醫院　幹事　高木さみ子
女子共立育兒會　幹事　濟浦さよ子
仝　幹事　中山こう子
福田會惠愛部　幹事　原れい子
仝　幹事　松平すま子
貴婦人法話會　幹事　河野せき子
仝　幹事　佐和はま子
大日本婦人弘道會
幹事　伯爵夫人　松平充子
大日本婦人矯風會々長　矢島楫子
東京婦人矯風會々長

潮田千世子
婦人質問會　幹事　矢田部順子
仝　幹事　爪生繁子
帝國婦人協會　理事　岩波すみ子
仝　教員　松本えい子
華族女學校學監　下田歌子
仝　助教　木村貞子
女子高等師範學校　教諭　佐方鎭子
仝　教授　武田錦子
東京府高等女學校　教員三輪田眞佐子
跡見女學校々長　跡見花溪
女子共立職業學校　教員　小杉くら子
仝　教員　齋藤かれ子
明治女學校　教員　五島千代槌
仝　教員　坂本なつ子
赤十字社病院看護婦監督　高山盈子
女子之友記者　石川よれ子
仝　杞太たれ子
女學雜誌記者　池田つき子
仝　島田みや子

大日本婦人衞生會記事

◎第七拾八次例會　六月十日午後一時より牛込區簞笥町牛込區役所樓上なる區會議事堂に於て本會の第七十八次例會を開きたり會場は一面絨壇を敷き詰め椅子卓子等は小島牛込區長の注意により新に洗滌したる白布を掩ひ貸與せられしかば特に清快を覺へたりき當日役員には差支多く出席せられしは濱尾副會長、鳩山、高木の兩幹事にして會員及愛日赤城の高等四學年女生及同親屬等無慮三百餘名に達せり席定まるや醫學博士大澤岳太郎君には婦人衞生に就ての要件と云へる演題にて婦人衞生の要旨は躰育上精神上の健康に留意すべしとて先づ婦人の體育を奬勵して曰く體格を强壯に

する方法は種々ありと云ども尤も容易にして行ひ易きは野外若くは公園等新鮮なる空氣中に於て運動するに若くはなし日本婦人は果してよく此運動を實行しつゝありや否や歐洲の市街に於ては婦人の散歩するもの極めて多しと雖も我國の如きは之に反す漸く書生輩の一部のみ規則正しく運動するあるを覺ゆとて上野公園に於ける男女散歩の數を實地に就き算定せられ女子は男子の三分の一なりしとて尙此割合を東京市及區の人口等に換算して男女殊に婦人散歩の少くして本邦婦人は全く運動嫌ひと云はざるべからず本會の如きは宜しく運動を奬勵すべしと慨し延いて精神上の健康に就き身體の健康は精神の健康なるが日本人精神上の健康は果して滿足すへき生活を爲すや否や本邦に於て離婚の多きことは尤も欠點とする處にして家內の不和ほど精神上の健康に影響を及ぼすこと甚だしき者なし去る二十四年以降四年間の統計によれば結婚の三分の一は離婚なりとて其弊害を擧げ尙日本に於ては家族團欒の樂なく男子は常に外にのみ出で女子は常に家にのみ殘され居るか故に哲學者の所謂（イタミ）即退屈を來す退屈は精神



上尤も影響を及ぼすものにして日本の生活は恰も家內に退屈をさせる樣になり居るとて其身體に及ぼす害を擧け終りに軀格上の健康と精神上の健康を望むには如何にして可なるやは婦人衞生上に就ての要件なりとて考案三四を說明して降壇せられたり次に醫學士丸茂文亘君には凡そ病人のある場合には第一早く醫師を迎へることは勿論大凡病人の容躰を醫師

に報ずることは實に最も必要なることにして患者の様子を報ずるときは醫師は便秘なれば便通の器械を携帶し中毒なれば下劑の用意をなして速に治療することを得へきが故に病症によりては死すへきものも注意一つにて活かすことを得べしとて其種々なる病症を說き併せて器械等十數種を示し其使用法等を說明して演述せられ右終り四時少し過ぐる頃一同散會を告げたり

會報

◎本會第七十七次例會々場として去五月十三日女子高等師範學校借用に就ては同校長高嶺秀夫、教授野口保興、庶務貴船鎔吉、諸氏は本會の爲め特に便宜を與へらる茲に揭げて謝意を表す

◎本會第七十八次例會々場として去六月十日牛込區役所借用に就ては同區長小島官吾君は吏員横濱、柴田、山崎の諸氏をして本會の爲め特に便宜を與へらる茲に揭げ諸氏に對して謝意を表す

◎本會々員なる第一醫院代とめ子、赤十字社佐藤梢子の兩氏は數年來兩所に於ける會員への通知若くは會費領收等に便宜を與へらる茲に揭げ謝意を表す

◎大日本婦人衛生會新潟支會記事

◎新潟支會の濱遊會　仝支會にては去る五月二十七日新潟市日和山下において濱遊びを催したるが出席の會員は凡そ百名許にして中々盛んなりしとの事なるが今同支會より報じ越したる概況を記さんに當日會員は午前十時頃より續々日和山の上なる山根屋といへる茶屋へ集り各々適宜の散歩を

試み正午には茶菓、團子、辨當などを出し食事終りてより講師總代なる高橋辰五郎君には開會に就ての挨拶あり次に此頃支會講師となられたる醫學士撫養圓太郎君の耳に就ての演述ありそれより講師中村勇三郎君の寄附にかゝる蓄音器評議員竹山れつ子の寄附に係る胡弓演奏等の餘興あり午後二時頃よりは講師も會員も皆々續々として濱の廣き砂原へと赴きたり濱邊には蕎麥店を設けて會員休憩所とし會員一同は今日こそ皆々打ち解けて小供にかへり充分なる運動せばやとて會員は銘々に組を分ち鬼事するもあれば目カクシするもあり特に講師諸氏の寄附に係る音樂隊は活潑なる演奏を初めしかば一段の壯快を覺へ驅るやら轉ぶやら大愉快なる運動をなし皆々氣も清々として大滿足なりしと當日朝は天氣摸樣惡かりしも追々快晴となりしかど折惡しく風つよく波高き爲め漁夫の網引くとも叶はざりしが近來になき盛會なりしといふ。

◎新潟支會濱遊會寄附

音樂隊蓄音器演奏		講師一同ヨリ
旭ラム子百五十本		旭ラム子製造場 富岡彌三郎氏
○胡弓演奏		竹山れつ子
○金壹圓	會長	勝間田千代子
○金五十錢	副會長	安原なみ子
○金三十錢	幹事	中村しげ子
○金三十錢	仝	鍵富孝子
○金三十錢	仝	古瀬初閑子
○金三十錢	評議員	竹山れつ子
○金三十錢	仝	池原きん子
○金三十錢	仝	中村きん子
○金三十錢	仝	小柴きく子
○金三十錢	仝	保倉せい子
○金三十錢	仝	高橋たい子
○金三十錢	仝	川上ふさ子
○金三十錢	仝	清水くり子
○金三十錢	仝	神尾つや子
○金三十錢	仝	水野さち子
○金三十錢	仝	中野ゑつ子

入會者報告

◎本會入會者（五月中）

○事務所申込
麹町區飯田町五丁目四番地　通常會員　依田豐子

○事務所申込
相州横須賀豊島村公郷二百四十四番地　通常會員　俵つね子

（六月中）

○濱尾副會長紹介
南葛飾郡隅田村鐘ヶ淵紡績會社内　通常會員　大谷てう子

○磯田かつ子紹介
日本橋區本材木町一丁目九番地　終身會員　玉塚とよ子
淺草區南富坂町十地地　通常會員　花房わい子
日本橋區濱町二丁目十七番地　通常會員　山崎かつ子
麹町區平河町六丁目二十番地　通常會員　岡山とし子

○大井上かね子紹介
本郷區彌生町三番地はの八號　通常會員　廣井つな子

○河崎はる子紹介
本所區菊川町一丁目二十七番地　通常會員　石山豐子

○堀江みき子紹介
神田區猿樂町二十五番地　通常會員　熊澤しま子

○室ともを子紹介
芝區櫻川町二番地室方　通常會員　渡邊錄子
仝所　通常會員　大久保菅子
仝所　通常會員　高塚町子

○白神茂子紹介
長崎縣佐世保軍港中通十六番戸　通常會員　栗田さだ子

○事務所申込
周防國都濃郡末武南村大字笠戸港第四百八十三番地　通常會員　橋本梅子

新潟支會入會者

○中野悦子紹介
新潟市營所通　特別會員　井原かま子
新潟市營所通　特別會員　濱田たか子
新潟市下旭町　特別會員　松野なを子
新潟市學校町二番町　特別會員　撫養きさ子
新潟市産婆學校内　通常會員　遠藤たつえ子
新潟市東仲通二番町　通常會員　吉井くみ子

日本赤十字社新潟支部看護婦養成所　植木とし子
　　　　　　　　　　　　　　　　渡邊たつ子
仝　看護婦養成所　今井とし子
仝　看護婦養成所　田村つね子
仝　看護婦養成所　大江まさ子
仝　看護婦養成所　本田よし子
仝　看護婦養成所　保刈とき子
仝　看護婦養成所　吉田いま子
仝　看護婦養成所　加藤とし子
仝　看護婦養成所　東京日本赤十社ヨリ轉ズ　宇佐美きち子
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　星野よし子

轉居（五月中六）

麻布區新網町五十三番地三村實方へ　三村さく子
麴町區中六番町二十七番地へ　岩崎こく子
相州横須賀町深田四十二番地へ　清水富喜子
赤坂區青山南町六丁目三十番地へ　徳富靜子
靜町區隼町三十七番地へ　小田松子
神戸市下山手通八丁目百七十七番地へ　横山しん子
芝區三田綱町十番地へ　齋藤春子
名古屋市愛知病院へ　服部たま子
和歌山市東長町三丁目七番地へ　高木操子
日本赤十字社新潟支部看護婦養成所へ　宇佐美きち子
仝所へ　星野よし子

會告

◎御轉居之節は至急御通報を乞ふ
◎入會員御紹介の節は必ず會員の種類御記載を乞ふ
◎地方會員會費未納の御方は至急御送付を乞ふ

私立大日本婦人衛生會

廣告欄

●七八月例會休會廣告

來七月の本會例會は改正規則に據れば開會の規定に相成居候處本年は前年に比し暑氣の強きを覺え候に付來月中旬開會の事と相成候へば暑熱も格別烈しかるべくと存候間七八の兩月休會致し九月下旬に至り凉氣の相起つを待ち開會可致右御了承相成度候也

明治三十一年六月

私立大日本婦人衛生會

（明治二十六年四月四日遞信省認可）

●私立大日本婦人衛生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり

一 會員たると欲する婦人は何人にても入會することを得

一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一 終身會員は一時に金拾圓以上特別會員は一ヶ月金貳拾錢以上通常會員は一ヶ月金拾錢を納むるものとし學生其他事故ある者は減額して金七錢を納むるものとす

但地方會員の會費は半ヶ年若くは一ヶ年分を前納せらるべし

一 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

一 會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一 退會せんとする者は會員證を添へ本會事務所に報知すべし死亡する時は親戚知友より通知すべし

一 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし常通第一土曜日午后一時より開會するものとす

但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして随意聽講せしむるものとす

一 會員は家族か婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得

一 講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらすと雖も本會の都合に由り臨時謝絶することあるべし

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數増減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所（四谷郵便局）宛振出あるべし

一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費にして別に郵券二錢を添へらるべし然らざれは受領證を送付せず

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へとも總て一割とす

一 轉居せられたるときは其旨直ちに本會事務所宛通せらるべし

一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

本誌定價 壹部 金拾貳錢 毎月一回發行

東京四谷區仲町三丁目廿三番地
發行所 私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者 田中德三郎

東京牛込區矢來町三番地
印刷者 吉岡嚴八

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工塲